

志村 秀明 バークレー便い



※志村研究室ホームページ

<http://www.simarc.shibaura-it.ac.jp/> からリンクがあります。

【パークレー便り 目次】

- | | |
|--|--|
| その1・パークレー | その35・Research Method |
| その2・UCパークレー | その36・911 |
| その3・Wurster Hall | その37・MUD Fall Semester |
| その4・IURD | その38・Walk Out |
| その5・ディナ邸での夕食 | その39・Football |
| その6・Peterのサンフランシスコまち歩き | その40・Spice Festival |
| その7・Cal Day | その41・Univ. of Minnesota |
| その8・修士設計発表会 | その42・Detroit Collaborative
Design Center |
| その9・Design Studio Review | その43・Cleveland Urban
Design Center |
| その10・Master Studio | その44・University of Illinois
at Urbana—Champaign |
| その11・ISSCシンポジウム | その45・Yale University |
| その12・TOD事例 | その46・New Year Card とスケッチ |
| その13・スタンフォード大学 | その47・Kansas City Design Center |
| その14・Sunday Streets | その48・Clemson University |
| その15・Y-PLAN | その49・City of San Francisco |
| その16・都市計画演習 | その50・講演会 |
| その17・IURDシンポジウム | その51・Students Demo |
| その18・卒業設計発表会 | その52・Thanksgiving Party |
| その19・卒業式 | その53・University of Washington |
| その20・Adult School | その54・The end of Fall Semester |
| その21・Rose Garden | その55・Mississippi and Texas |
| その22・Special Election | その56・UC Irvine |
| その23・Simulation Lab. | その57・Japanese Visiting Scholars |
| その24・TOD事例 その2 | その58・Home Made beer |
| その25・アワニーホテル | その59・CSU Fresno & LA |
| その26・ナパ | その60・English Conversation
Partner |
| その27・ラスベガス | その61・Spring MUD and Thesis i |
| その28・ラドバーン住宅地 | その62・Sycamore Church |
| その29・Master of Urban Design
Thesis Studio | その63・Guests |
| その30・メイン・ライブラリー | その64・Surprise Party |
| その31・Village Homes | その65・日本～唐津、月島～ |
| その32・MUD Final Presentation | |
| その33・新学期の始まり | |
| その34・学生たちの訪問 | |

バークレー便り その1 ~バークレー~



志村です。

2009年4月1日に米国カリフォルニア州バークレー入りしました。

この4月からカリフォルニア州立大学バークレー校

Institute of urban and regional development (IURD)の Visiting Scholar(外来研究員)になります。

まずはバークレーでの我が家を紹介します。

一軒家に見えますが、この1階のみが我が家です。2階以上にオーナーが住んでいます。

オーナーの Thomasによると、この家は1920 頃に建てられたもので、

ビクトリアン様式の範疇にはいるようです。

建築年代は、ちょうど月島の自宅(1926 年建築)とよりもちょっと古いぐらいですね。

場所は、North Berkeleyの Gourmet Ghetto のすぐ西側にあたる

Milvia street と Rose street の交差するあたりです。このあたりはとてもきれいな住宅地です。

また、すぐ近く に Safe wayや Andronico'sといったスーパーがあり、

さながら月島の並みの生活のしやすさです。

他にも Cheese Board というチーズ屋とそこが経営するピザ屋があり、

そこで売っているパンまで含めて全て美味しい。

Chez Panisse といった有名なレストランを含めて食事をするところもたくさんあります。

大学の方は2日にチェックインしました。

事務処理上の関係で、今週はこれ以上大学でやることもなく、

来週月曜日に ID カードの発行などがされます。

今週はまずは生活を始めるための準備をしているところですね。

【 2009/04/05 12:24 】

バークレー便り その2 ～ UC バークレー ～



バークレーに来てから、最初の週が始まりました 。
先週、Visiting Scholar のチェックインを済ませていたので 、
今日月曜日には ID カードの取得ができました 。
その場で顔写真を撮られてすぐにカードができあがります。このような早さにはビックリします 。
ID を取得すると、学内の無線 LAN を使用したり、メールアドレスを取得できたり 、
図書館の利用ができるようになります 。
今日は、それらの手続きをすべて済ませました 。
最初は何かと手間がかかりますが、一つ一つ片付けていくといったところです 。
IURD のスタジオも使い始めました 。

ホスト Professor の Peter Bosselmann 先生にもお会いしました 。
水曜日にランチをして、見学会にも参加することになりました 。
早速、こちらでの活動がスタートしそうです 。
写真は、UC Berkeley の象徴の一つであるカンパネッリです 。
たしかイタリア語で鐘楼といった意味だったと思います 。
別名、セザー・タワーとも言います。この鐘の音は印象的です 。

今日まではカリフォルニアらしい良い天気、今日の最高気温は23度ぐらいありました 。
しかし明日は寒いようです 。

【 2009/04/07 10:15 】

バークレー便り その3 ～ Wurster Hall ～



写真は Wurster Hall です。

この中の3階に、私が所属している IURD (Institute of Urban and Regional Development) があります。

UC Berkeley の中には歴史的建築物が多いのですが、この Wurster Hall は近代建築です。

まだ詳しいことは分からないのですが、どうも UC Berkeley の有力な先生が設計した建物のように大切に使われており、耐震補強も念入りにやられたようです。

ちなみに、カリフォルニアは日本と同じように地震が多いところです。

この Wurster Hall のすぐ裏側にも断層があるということでしっかり耐震補強がされた訳です。

さてこの Wurster Hall には College of Environmental Design (環境デザイン学部) が入っています。

その中に Department of Architecture, City&Regional Planning,

Landscape Architecture, and Urban Design といった4つの学科があります。

これらの学科はすべて計画、設計、意匠を扱っており、

日本と違って Engineering は別の学部になります。

1階には、これらの学科共通の展示スペースがあって、

学生たちの作品が入れ替わり立ち替わりで展示され、講評会も行われます。

その様子が多くの人の目にとまるのは、相互に刺激になり良いことだと思います。

【 2009/04/11 14:04 】

バークレー便り その4 ～ IURD ～



さて、私が所属している IURD について簡単に紹介します。

IURD とは Institute of Urban and Regional Development の略で、

日本語にすると「都市地域研究所」といった感じになります。

ここには College of Environmental Design の Faculty たちが所属しており、主に研究の受託、

客員研究員 (Visiting Scholar) の所属、研究情報センターといった役割を果たしています。

といっても研究所自体は小さなもので、Wurster Hall の3階に入っています (写真参照) 。

事務員の部屋と研究員の作業スペース、会議室がある程度です。

会議室では、2週間に一度 Visiting Scholar Round Table が開催されます。

これは研究の情報交換を行うもので、世界中から来ている研究員が交代で研究成果を発表するものです。

Visiting Scholar はこの4月現在12人います (そのうち中国人が5人) 。

IURD の詳細については、

<http://iurd.berkeley.edu/>

を参照してください。なお Visiting Scholar として私も紹介されています。

http://iurd.berkeley.edu/Hideaki_Shimura

【 2009/04/17 10:29 】

パークレー便り その5 ～ダイナ邸での夕食～



このところすっかり忙しくなってしまう、
このパークレー便りも1週間ぐらい間隔があいてしまいました。
ということで、ちょっと息抜きということで、大学とは少し離れた話題を書きます。
パークレーに来てから(正確にはパークレーに来る前から)、
環境デザイン学部建築学科准教授のダイナさんにすっかりお世話になっています。
こちらに来てからは、週に一度ご自宅の夕食にお招きいただいて、
食事をしながらいろいろなことを教えていただいています。
ご自宅はクレモントホテルがあるあたりで、パークレーの中でも特に良いところですよ。
眺めもすばらしく、サンフランシスコ湾と五つのブリッジを見渡すことができます。

一つ目の写真は夕食の一場で、真ん中の女性がダイナさんです。
すごく大きなテーブルがあって、それを囲んでみんなで夕食をとります。
二つ目の写真の中央に写っているのが、ダイナさんのご主人のルロイさんです。
ルロイさんはとても料理が上手で、夕食は毎回ルロイさんの手によるものです。
この日はフィレミニョンのバーベキューで、写真はその焼き方を説明してくれているところです。
右端に写っているのが包(バオ)さんで、ご主人がUCパークレー客員研究員になっている奥富さんです。
奥富さんは建築史を研究されており、バオさんは都市史を研究されています。
やはりダイナさんにお世話になっており、毎週我々と一緒に夕食に招待されています。
ダイナさんのところでの夕食はとても楽しく、時間があっという間に過ぎていきます。
お腹も頭もとても満足できる日が週に一回あるわけです。

【 2009/04/25 09:31 】

パークレー便り その6 ～ Peter のサンフランシスコまち歩き ～



志村です。何かと忙しくなって、このブログに書こうと思っていることがたまってきています。さて私のホストファカルティの Peter Bosselmann 先生のことをなかなか書けないうえに、ピーターとは、ほぼ毎週、授業のサンフランシスコまち歩きでお会いしています。これはピーターが任意で開いている大学院生向けの授業で、ただまちを歩くのではなく、デザインと歴史的コンテキストを読み解くという面白い内容です。写真は私が1回目に参加させていただいた時のものです。チャイナタウンの中心と言われているポーツマツ広場に集合して、まちを読み解いていきました。このポーツマツ広場が、スペイン人たちがサンフランシスコを築いた時に、一つの中心としたこと、この広場から真っ直ぐに海を見られたこと、50ヤードを単位として街区が形成されていることなどを教えてくれました。私はサンフランシスコは何度か訪れていたのですが、そのような都市デザインの歴史は知りませんでした。またチャイナタウンには Alley (路地) がいくつかあり、そのいくつかを歩いて行って街区形状と建物タイプの関係について読み解いていきます。これは私の恩師の佐藤滋先生の計画論と同じでとても面白いと共に、強く共感しました。また建物などの空間スケールを身につける訓練もします。同時に建物の構成も学生たちに考えさせます。学生たちはスケッチブックをもって、そこにスケッチや断面図を何枚も描いていきます。とても良い訓練だと思いました。このピーターの授業についてはまた書きたいと思います。(時間があるかな・・・)

【 2009/05/04 14:04 】

バークレー便り その7 ～ Cal Day ～



何かと忙しく、このブログも書こうと思っていることが貯まってしまっています。さて、今回は「Cal Day!」という、UCバークレーの学園祭とオープンキャンパスを兼ねたようなイベントのことです。かなり前、4月18日(土)にこのイベントがあったのですが、大学内の様々な学部、図書館などの建物に入り、見学ツアーがあったり体験ツアーがあったりと100以上のイベントがこの一日で行われました。

お楽しみ企画としては、留学生が多いということで、インターナショナルランチコーナーやブラスバンドとチアガールショー、スタンフォード大学とのテニスの対抗戦もありました。とにかく楽しめるイベントで、写真はキャンパスへのメイン入口の一つセザーゲートのところですが、多くの来場者がありました。

しかしオープンキャンパスを兼ねているということで、各学部の紹介コーナーや進学コーナーもしっかりと設置されていました。

ちなみにカリフォルニア大学は、シュワルツネッガー知事に予算をカットされてしまったこともあり、現在資金繰りが厳しい状況です。学費は一年間で250万円ぐらいとすごく高い！そのため、奨学金が潤沢な他の私立大学に学生を取られているのです。華やかな影にも、厳しい状況があるのです。

【 2009/05/24 07:00 】

バークレイ便り その8 ～修士設計発表会～



今週はちょうど Spring Semester の終わりでした。

その関係でいろいろな行事が目白押しでした。

そこでしばらくはそれら行事のことをレポートしたいと思います。

5月2日、3日の土日に修士設計発表会が行われました。

これは Department of Architecture によるもので、大体50人ぐらいの学生が発表していました。

発表会は Wurster Hall の1階と2階のロビーとエレベーターホールを使用します。

発表と Review はすべて公開されるわけです。

先生は10人ぐらい出席し、学生の観客は30人ぐらいだったでしょうか。

なかなか熱のこもった発表 と review でした。

学生の最終成果物については、図面表現が上手いということでしょうか。完成度も高いと思います。

日本に比べて模型はすくなく、C G が多用されています。手描きもありました。

発表時間は10分程度で、講評が20分以上あり、一人当たり合計で30分以上かけます。

米国でも、わざわざ週末を使って、ここまでしっかりやるのだなと関心しました。

【 2009/05/24 07:36 】

パークレー便り その9 ～ Design Studio Review ～



Semester の最後というのは、学生の成果発表会が目白押しです 。
5月6日(水)には、peter が担当している Urban Design Studio の Review がありました 。
Urban Design Studio というのは、大学院修士課程のコースで 、
同コースでの一番メインとなる演習科目です。今年度は学生数は少なめで、10人の履修者でした 。

テーマは、サンフランシスコの地下鉄計画にともなう都市の更新です 。
カリフォルニア州では 、
サンフランシスコとロサンゼルスを結ぶ新幹線計画が議会決定されていますが 、
その計画にともない、サンフランシスコの市街地にも公共交通整備の動きがでています 。
今のところ有力なのが、カルトレイン駅からトランスベイ(新幹線の駅ができるところ)、
チャイナタウン、さらに北のフィッシャーマンズワーフを結ぶルートです 。
学生たちは、これに合わせて、カルトレイン駅周辺、コロンビアストリート周辺 、
フィッシャーマンズワーフ周辺を対象地区に選び、市街地の更新を提案しました 。

UC パークレーの大学院生というのは、大体一度社会にでて仕事の経験を積んでから
大学院に入った人が多いということもあり、提案のレベルはかなり高いです 。
図面表現力も高く、手描きもかなりできます 。
この Review は、やはり Wurster Hall の1階ロビーで行われました 。
ゲストはサンフランシスコ市役所や交通局などから10人ぐらい来ました 。
Review の仕方としても、公開性が高く、実務者からのコメントが得られるなど 、
見習うべき点が多いと感じました 。

【 2009/05/31 03:51 】

パークレー便り その10 ～ Master Studio ～



今回は Urban Design Studioの Master Course 最終作成課題についてです。
今年度は、このコースの学生は5人と少なめで、また全てがインターナショナルコースの学生です。
インターナショナルコースというのは、海外からの学生を対象に、特別に1年間で修了できるものです。
大体、すでに仕事をしていて、キャリアを高めるために
1年間仕事を中断して来ている人が多いようです。
授業料も非常に高い(年間240万円ぐらい)なので、このコースで入ってくる人は少なくありません。
その代わりかなりハードで、前回の「パークレー便り」で書いた
サンフランシスコの地下鉄計画にともなう課題と並行して、この最終作成課題が進められています。
またこの5月で普通の学生は終了となるのですが、このコースの学生は8月まで課題に取り組みます。
課題対象地は、学生が自由に選べます。
大体ホームカントリーを選ぶ学生が多く、
今回もムンバイ(インド)、南アフリカなどと大変国際的でした。

写真は5月8日に行われた中間 Review の様子です。
すでに仕事をしている人が多いということで、とにかく学生たちは手描きも達者です。
図面表現能力が高いと言えるでしょう。多くの図面を壁に貼って、
検討内容を10分ほどで説明していきます。
教員は、担当のピーターをはじめ、プランニングやランドスケープ、外部のプロフェッショナルと
大体8人ほどの先生がそろいました。
日本からは、明治大学の小林正美先生も参加されました。
これら先生からの指摘を受けて、学生たちは8月の最終 Review まで作業をしていくわけです。

【 2009/06/01 02:13 】

バークレー便り その11 ～ ISSC シンポジウム～



Urban Design Studio があつた5月9日の午後には、
Institute For The Study Of Social Change (ISSC) のシンポジウムがありました。
この研究所では、学生の社会貢献活動を
「プロジェクト」と「インターンシップ」の二つの方法で支援しています。
春学期の最後ということで、その成果発表会があつたわけです(写真参照)。

活動対象地区は、オークランドやリッチモンドといったバークレー近郊都市で、
内容は貧困層の移民コミュニティの実態調査と提案、
犯罪や家庭内暴力の実態調査と提案といったところでした。
これらのテーマは、日本とはちょっと異なりますが、
地域社会の問題に取り組むといった姿勢は、日本でも参考にできるものです。
この研究所のように学生の社会貢献活動を支援している研究機関は、
UC バークレーの中に20以上あります。
学生たちの成果は、決して高いレベルではなく、
どちらかという学生社会貢献活動自体に意義があつて実施されているのでしょ
う。
米国では、高等教育機関でもこのような取組が要求されているのです。
今後、このような取り組みを、いくつかブログで取り上げますが、
都市計画学会機関誌「都市計画 279号」の「海外特派員便り」に書きました。
そちらも読んでいただけますと幸いです。

【 2009/06/07 08:51 】

パークレー便り その13 ～スタンフォード大学～



さてこれも 明治大学の小林先生らと、East Bay めぐりをした時のこと です 。
近くまで来たということで、かの有名なスタンフォード大学に立ち寄りまし た 。
すごいという話は聞いていましたが、想像以上の大きさと立派さに驚きまし た 。
まず敷地面積は、私が客員研究員として所属してい る UC バークレーの3倍以上あるでしょうか 。
敷地内をフリーウェイが通っているほど大きいのです 。
建物は、スパニッシュで統一されています 。
壁は赤茶色の自然石またはコンクリートの擬石なのですが、日本で見られるような安っぽいものと違い 、
本物の石より高いのではと思われるほどの立派な擬石を使っています 。
屋根は赤茶色の瓦です(写真参照) 。
また校内はいたってきれいで、ベンチも新品同様です 。
大体、UC バークレーも含めて、アメリカの路上やストリートファニチャーはきたない！
ベンチなど座るのをためらうほどですが、ここは思わず座りたくなるほどきれいです 。
スタンフォード大学は私立大学な訳ですが、こうも違うものでしょうか 。

また大学までアプローチする道路もきれいなのでビックリしました 。
大体こちらの道はデコボコです 。
それがスタンフォード大学に通じる道だけは、鏡のように平らな道でした 。
施設としては、教会もあります。ちょうど我々が訪問した時には、結婚式をやっていました 。
写真は展望台がある塔から写したのですが、そこでの学生のガイドがとても明るくて 、
浮かれているのが印象的でした 。

「スタンフォードで勉強できて嬉しい！」という気持ちがすなおに表れていました 。
この大学は、大変お金もちの家の学生(それを特権階級と表現する人もいます)が入学するところのよう で 、
ちょっと違うところだなと率直に感じました 。
それにしても創立者のスタンフォードという人は、鉄道で財をなした人で 、
一人息子に先立たれたということで、その全財産を使って大学を創立したそうです 。
偉い人が居たものです 。
このようなことですばらしい施設、大学ができてしまう米国とは・・・まさに市民がつくっている国でしょうか 。

【 2009/06/21 15:11 】

パークレー便り その14

～ Sunday Streets ～



このところ志村研究室のブログが活性化しているようでなによりです。
さて、これも明治大学の小林正美先生と一緒にだった時のことです。
5月10日(日)に、サンフランシスコのSunday Streetsというイベントに参加してきました。
これは普通の道を歩行者天国にするというイベントで、月に1回ほどの頻度で、
サンフランシスコ市内のどこかの道を対象にして開催されます。

この日は、ミッションベイの海沿いの道が対象で、市内に近いところだと
MBA サンフランシスコ・ジャイアンツの本拠地 AT&T パークスタジアムが出発地点でした。
写真にある通り、この日は無料の自転車の貸し出しもあり、
みんな楽しく海沿いの道を散策できるようになっていました。
我々も自転車を借りて1時間ほどサイクリングを楽しみました。

途中、かつて魚の加工工場だった建物を保存・活用しようとしている市民メンバーに会いました。
署名活動をしていたので、我々もサインをしてちょっと話しました。
つまりこのイベントは、何か開発の動きや課題があるところ選ばれて開催されるのです。
この海沿いの地区は、ミッションベイの再開発の影響で、やはり再開発される動きがあるのです。
そこでこのようなイベントを開催して、市民の関心を高めようとしている訳です。
このようなイベントは、日本でも開催されていますが、
そこに関わる市民団体の数がこちらの方がやはり多い。
このくらい盛り上がるイベントが日本でもできればいいなと感じました。

【 2009/04/17 10:29 】

パークレー便り その12 ～ TOD 事例～



志村@パークレーです。

5月9日に、パークレー訪問中の明治大学の小林正美先生、UCパークレー博士課程の村上さんと共に、East Bayの TOD (Transit Oriented development) の事例巡りをしました。

写真の1枚目は、サンフランシスコのちょっと南にある San Mateo です。ここは TOD 事例という訳ではないのですが、アムトラック(鉄道)駅とその周辺環境改善をしています。面白いと思ったのは、駅を含めたダウンタウンの改善です。一見何の特徴もないまちなのですが、歴史的建築物の保全、景観形成、歩道の改善、駐車場の整備、小川の再生、環境にやさしいまちづくりなどに取り組んでいます。つまり頑張っている「普通のまち」といった感じですが、日本と似ていますが、建築保全や景観形成は進んでいます。景観も含めて、ダウンタウンの魅力を高めて、人々のアクティビティを高めようと姿勢がはっきりしています。

2枚目の写真は、私の芝浦工大3年年生の授業でも話をしている Mountain View の駅前メインストリート「カストロストリート」です。前回訪れたのは6年ほど前なのですが、よりアクティビティ(生活感)が増しているように思いました。ちょうど写真に写っているのは、ストリートパーキングをオープンカフェにしているところです。ここはまちのルールで、パーキングかカフェかを選べる仕組みになっています。ユニークな試みです。この時は、他にも Crossing などを見ました。機会があったらレポートします。また今年度建築学会大会景観小委員会の資料集に、この San Mateo のことなど書く予定です。そちらもご覧いただけますと幸いです。

【 2009/06/14 13:18 】

バークレー便り その15 ～ Y-PLAN ～



これもちょっと前のことですが、私が所属している UC バークレー IURD の中にある Center for Cities & Schools(以下: CC&S)が運営している

Y-PLAN という活動のポスターセッションに参加しました。

Y-PLAN というのは、Youth+Plan, Learn, Act, Now! の頭文字をとったもので、CC&Sの創立者である Deborah McKoyが 1999 年に始めたものです。言葉の意味の通り、若者(学生)のプランニングと学習と活動を一緒にして推進していこうとするものです。

写真はポスターセッションの様子です。

これは、学生たちがそれぞれの活動を発表し、教員たちがそれについてコメントしていくというものでした。

CC&Sは College of Environmental Design(環境デザイン学部) 内にあるのですが、学生は経済学や社会学専攻もいて、また学部生だけではなく大学院生もいました。

学生たちの活動は大きく4つに分かれていて、バークレーの北にあるリッチモンド市の歴史的建物保全とコミュニティ維持、バークレーの南にあるエマリービル市のコミュニティと福祉に関する提言、サンフランシスコ市の公園の遊歩道再生、オークランド市の持続可能な環境づくり、といったものでした。学生たちの活動は積極的で、発表の仕方もしっかりしていました。

ただ個人の活動なので、内容としては完成度が高いとは言い難いもので、また成果物のパネルも簡単なものがほとんどでした。

しかし数名、なかなかしっかりした学生もいました。

全体的には私の関心に近い活動であり、

このセンター - CC&S の活動については、今後も調査をしようと思っています。

【 2009/07/01 13:26 】

パークレー便り その16 ～都市計画演習～



semesterの最後には、いろいろな成果発表会に参加しました。

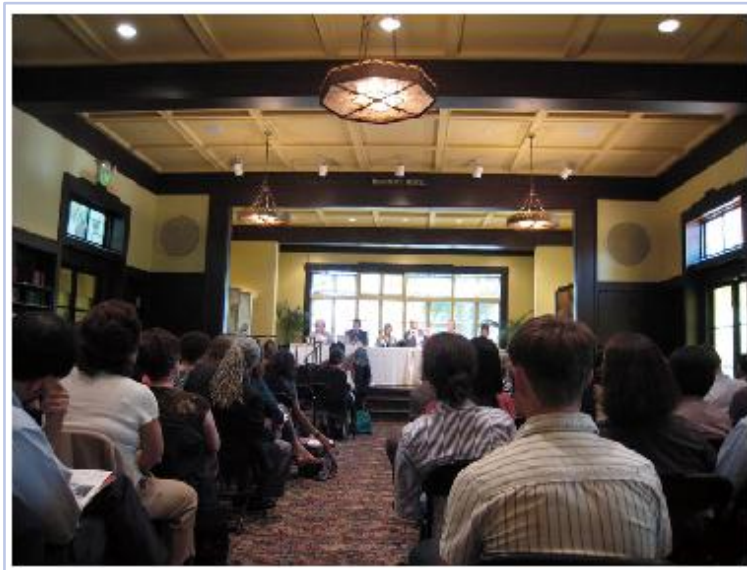
これは Urban Planning Process -Undergraduate Planning Studio の授業の一つで、主に学部3年生が履修しています。担当教員は、Allan Jacobs 先生で、私が早稲田大学都市計画研究室博士課程に在籍していた時代に、イタリア・サッスオーロで開催された国際ワークショップの時に一緒にさせていただいた先生です。サンフランシスコ市の都市計画局長をされていた方で、特に歴史的建築物、町並みの保全に力を入れられていました。超高層建築は大嫌いな方です。また街路設計を専門にされています。Jacobs 先生の容姿は、体ががっしりとしていて、頭はツルツル、プロレスラーの「ブッチャー」という感じで、見た目はすごい怖そうです。学生たちへの指導は厳しいそうですが、私がイタリアで受けた印象は、良いところを見つけて評価してくれる優れた教育者と感じました。

課題対象地は、大学のすぐ近く Downtown Berkeley にある University Avenue と、それが Shattuck Avenue と交差するあたりです。例年ここを対象としているようですが、現実には多くの課題を抱えている地区であり、学生たちが取り組みやすいものといえます。

写真はその最終 Review の様子です。学生たちの提案内容は、頑張っているようですが特にすごいレベルとは感じませんでした。表現力も、Masterの Urban Design Studio と比べるとまだまだといった感じです。どうしても芝浦工大で私が担当している「地域デザイン演習」と比べてしまっていますが、提案の完成度としてはほぼ同等といった感じでしょうか。

当然、課題の性格が違うので、地域デザイン演習では、よりボトムアップを取り入れた提案となっています。しかし発表会は、Wurster Hall の2階ロビー(というより廊下)で、公開されて行われます。教員陣も、4名の先生とゲストが入り、活発に意見交換がされます。このやり方は、見習わなければなりません。

【 2009/07/06 03:10 】



私が所属している IURD では、様々なイベントやシンポジウムを開催しています。

その一つとして、5月に行われたシンポジウムを紹介します。

IURD は、その中にいくつかのセンターを持っています。

(そのことは、このブログ の IURD の回でちょっと書いているはずですが。)

各センターにはリーダーとなる教員がいて、今回紹介しますシンポジウムは、

Center for Community Innovation (CCI) のリーダー、 Karen Chapple が中心となって開催したものです。

テーマは、 State of Housing In the East Bay ということで住宅問題についてなのですが、

カリフォルニアは現在、大変な財政危機に陥っており、住宅問題も深刻になっています。

ちょうどタイムリーな話題だったといえるでしょう。

シンポジウム は Karen の基調講演があった後に、パネルディスカッションが行われました。

ここでは、州の住宅部門の代表者 や NPO の代表が登壇しました。

CCI はアフォーダブル住宅(低所得者向住宅)の供給を推進している NPO と協力関係を持っていて、

その NPO が今回の企画をリードしていたようです。

大学と NPO、行政が連携した企画だった訳です。

会場は、大学のすぐ隣にあるホテル(Bancroft Hotel) の大ホールでした。

大学では、近隣のホテルを使って会議やイベントを時々開催するようです。

これも施設を有効活用するという意味で、ユニークな上手いやり方だと思いました。

Karen の専門は「都市経済」で、必ずしも私が今回行っている研究テーマと合致しないのですが、

精力的に地域活動をしかけているようなので、今度お会いして話をする予定になっています。

【 2009/07/15 10:53 】

バークレー便り その18 ～卒業設計発表会～



さて今回は、College of Environmental Design の学部の卒業設計発表会についてです。
UCバークレーの建築学科などでは、日本と同様に4年間で学部卒業となります。
学部の総仕上げとなるものが卒業設計という点は、日本と同じです。
しかし日本と違うのは、建築士にあたるプロフェッショナルの資格に通じるものが、
この4年間の勉強だけでは獲得できないことです。
つまり建築士になろうと思ったら、大学院まで行かなければなりません。
UCバークレーは、学部での教育よりも大学院での教育に力を入れています。
これは大学院から UCバークレーに入ってくる学生が多いということです。

一つ目の写真は建築学科の卒業設計発表会です。

すでにレポートしている Master の発表会に比べると、図面の完成度、発表の迫力などの点で、明らかに劣ります。
教員のコメントもやさしかったですね。(何かは厳しい先生もいるようですが。)
やはり芝浦工業大学建築学科の卒業設計と比べてしまいますが、
芝浦のトップの学生はバークレーに勝っていると思います。
しかしそれは模型の迫力によるものが大きいかと思います。
図面の完成度は、どちらもそれほどではないでしょうか・・・
発表自体については、やはりバークレーの学生の方が上手いでしょうか。

二つ目の写真はランドスケープ・アーキテクチャー学科の発表会です。

面白い事に、Wurster Hall の中庭でやるのです。「ランドスケープ」ならではのこだわりでしょうか・・・
図面の完成度については、まあまあといったところでしょうか。

いずれにしても、発表会が公開されていることは大いに見習うべきでしょう。

それによって、学生と教員の緊張感が違ってきます。

多くの目に「さらされる」ことは、やはりこの分野では、何よりも大切なことなのでしょう。

【 2009/07/18 13:31 】

パークレー便り その19 ～卒業式～

UCパークレーの1年度は、5月末に終わります。
これは他の大学と比べると早いようで、大体の大学は6月に終了するようです。
卒業式は College(学部) 単位で行われます。今回レポートするのは、
私が所属している College of Environmental Design(CED) のものです。
やり方は、学部によって違うようですが、CED では、まずパーティー を Wurster Hall の中庭でやります。
ここでは小さなセレモニーの後に、立食パーティーが行われます。
(写真の手前がセレモニーの会場で、向こうに見えるのが立食パーティーの様子です。)



これには卒業生だけではなく、誰でも参加できます。
三々五々、参加者は散っていきますが、遅い人は夕方まで楽しみにワインを飲んでいました。
そして翌日に、キャンパスの東、パークレーヒルにあるギリシャ劇場(屋外、Greek Theater) で
卒業式が行われます(二枚目の写真)。
この時期は、East Bay ではまず雨が降らないので、屋外の劇場で式を行うことができるわけです。



やはり会場がすばらしいので、威厳のある式でうらやましく思いました。
これに魅力を感じて入学してくる学生もいるのではないのでしょうか。
セレモニーは、学士から修士(Master)、博士(Doctor) と順番に行われます。
学士でも全員ガウンを着て、一人一人学位記をもらっていきます。
学生のスピーチは、総代がしていました。記念撮影も一人一人されていました。

ちなみにこの卒業式には、チケットがないと入場できません。
私は IURD の博士課程に所属している村上さんからチケットを入手してもらって入場することができました。
チケットは、学生一人当たり4枚が配られるようです。

【 2009/07/30 09:56 】

バークレー便り その20 ～ Adult School ～

今回は、UCバークレーのことからちょっと離れて、やはり私の重要な日課になっている Adult School(アダルト・スクール)での英会話の勉強について書きます。「アダルト」というと、日本人にとっては変な感じがしますが、米国ではシニアも含めた社会人学校ということで広く普及しています。日本でいうと自治体の文化センター等が運営している「市民大学」といった感じでしょうか。どちらも市民教育の場として重要な役目をもっていると言えるでしょう。

アダルト・スクールでは、英語以外にも、様々な外国語、ヨガ、料理、スポーツと、実に様々なことが学べます。英語の勉強は、English Second Language (ESL) というコースで、ほとんどが無料です。それというのも、英語を身に付けてもらい、仕事につけるようにすることは重要な社会政策ということで、市や州から補助金がでているのです。(日本の市民大学は全て有料ですから、この辺りの政策の違いも興味深いものがあります。)

私が通っているのは、バークレー市のすぐ隣にある Albany(アルバニー) のアダルト・スクールです。バークレーにもアダルト・スクールはあるのですが、ここは Federal(連邦) から補助金がでているということで、厳しい教え方をしているようです。

アルバニーのアダルト・スクールは、たいへん自由な雰囲気、私が勉強しているコースの教員 Debby は、やる気もあり、また生徒との接し方がフレンドリーで、たいへんすぐれた人物です。また生徒はとてもインターナショナルで、世界のことが実感できます。例えば、チベット人のドルマは、中国からインド側へ亡命した人で、現在はアメリカに来て、将来の活路を見出そうとしています。まさにニュースで見ていたダライラマの亡命に関して人と話ができるのです。また中米のニカラグアから来た女性は、1980年代の共産党政権樹立に対抗するアメリカの軍事介入について話をしていました。これもニュースで見ていた通りです。他にも、イラン人、ポーランド人、イスラエル人等の話は、世界史で学んだことをその体験者から直接話を聞くことができ興味深かったです。



以上のような話は、授業の合間にも聞けましたが、大体はパーティーの時に聞きました。写真はそのパーティーの一つで、いわゆるポットラックパーティーで、生徒皆が手料理をもってきます。これがまたインターナショナルでとても美味しく、楽しい会なのです。ということもあって私は、月曜日から水曜日、金曜の午前中にアダルト・スクールに行き、午後から大学に行くという生活が基本パターンとなっています。(どうことで毎日が忙しいのですが…)

【 2009/07/31 14:09 】

バークレー便り その21 ～ Rose Garden ～



前回、アダルトスクールについてふれたので、
そのランチピクニックで行った Rose Garden (バラ公園) について書きます。
これはバークレー市が保有する公園ですが、市民の手で創られ、また管理されています。
公園づくりが着手されたのは1933年で、1937年から誰もが利用できるものになりました。
East Bay のバラ愛好家グループが創り上げ、現在もそのコミュニティーメンバーが
何百時間ものボランティアで美しいバラを育て管理しています。
バークレーヒルの急な斜面にあり、デザインには建築家とランドスケープデザイナーがかかわっています。
5月下旬から6月上旬がバラの見ごろなのですが、とにかくものすごい種類のバラがあり、
また綺麗に管理されています。
ちょうどこの時期にマザーズデーがあるので、その日にはイベントも行われるようです。
すぐわきにはテーブルとベンチがあり、我々もそれをつかってランチを食べました。
日本でも、アドプト (adopt) 制度で、市民が管理する公園や、
一般に公開される公園が見られるようになってきましたが、戦前からこのような公園が創られ、
ずっと綺麗に管理されているのには正直驚きました。

【 2009/08/06 09:25 】

カリフォルニア州全域

特別 選挙

2009年5月19日火曜日

★ 公式投票者ガイド ★

選民の必読

本ガイドは、2009年5月19日の特別選挙に関する重要な事項について、選民にわかりやすく説明するために作成されています。このガイドは、投票日当日に配布される選挙資料の一部として提供されます。



今回は、カリフォルニア州の特別選挙について書きます。
これは5月19日に行われたのでかなり前ですが、書こうかどうか迷っていて、
しかしこの影響がずっと残っているので書くことにしました。

これはいわゆる直接住民投票で、州財政の安定化を図ったものです。いくつかの事項と一緒に投票されました。
たとえば、「州の歳出を制限するとともに予算安定化基金を増加する」、「教育資金調達調整」、「
「子供サービス基金の保護」、「議員給与カット」などです。これらの事項と一緒に採決する訳です。
日本では、いくつかの自治体で直接住民投票が行われていますが、極めて限定的です。
やはりこの4月から Visiting Scholar になっている行政学が専門の伊藤さん(首都大学東京・教授)によると、
カリフォルニア州では、法律でいくつかの事項については住民投票にかけることが決まっていることのことです。
これほど多くのことを住民投票にかけるのでは、議会の役割はどうなっているのかと思いましたが、
ちゃんと議会にはしっかりした役割があるようです。

またこの選挙で面白いと思ったのは、写真のような選挙事項資料が市民に配られて、
そこに各審議事項の意味(結果)について解説されていることです。
写真のように日本語もありますし、その他にも10言語以上のものが用意されています。
かなりページ数がある資料ですので、市民の高い関心と知識も要求されます。
それでもこのような資料の解説は、当然中立な立場で書かれている訳ですが、意図的に解説を操作して、
選挙結果を誘導することもできる訳です。ちょっと怖いと思いましたが、
伊藤さんによると、しっかりと適正に現状は行われているようです。

気になる投票結果ですが、歳出を制限する事項は否決されました。
その結果、未だにカリフォルニア州の財政は危機的な状況で、
日々シュワツルネッガー知事と議会が議論を続けています。

【 2009/08/10 08:02 】

パークレー便り その23 ～ Simulation Lab. ～

UCパークレーは、5月下旬にセメスター(学期)が終わり、夏休みに入ってしまいます。

その夏休みに入ってすぐに、Peterに頼んで環境シミュレーションラボを見せてもらいました。

(Peterが夏休みに入ってどこかに行ってしまう前にお願いしたわけです。)

写真の一つ目がそのラボの一部です。

これは1980年代につくられたもので、都市模型を製作し、それをシュノーケルカメラでアイレベルから見て、ビジュアルに都市景観、環境をシミュレーションすることを可能にしました。

さらに都市模型の建物には、建物の写真をゆがみ補正して貼り付け、それをシュノーケルカメラで見ることによって、将来の都市空間をリアルな映像で体験することができる画期的な装置でした。

このシミュレーションラボの詳細いことは、「まちづくりデザインゲーム」

(学芸出版社、執筆者代表:早稲田大学 佐藤滋先生)の中で、有賀先生(早稲田大学)が書かれています。



これと同じような仕組みの装置を、早稲田大学の佐藤滋先生らが開発し、早稲田大学都市地域研究所に設置しています。この装置の整備には、私も係らせていただきました。また同じ原理のポータブルシミュレーション装置を開発し、志村研究室にも設置してあります。

そのようなことで、このオリジナルのシミュレーション装置は、ぜひ一目見ておきたかったものでした。ですので見た時には結構感激しました。当時としてはすごくオリジナリティのある装置で先進的だった訳ですね。模型はサンフランシスコです。ベイブリッジのあたりに新たな超高層計画の建物模型が置かれております。(本当にこれらが建設されるか! というものがいくつかありビックリしました。)



さらにこの日は、北海道大学の瀬戸口先生が積雪のシミュレーションをした風洞実験装置もを見せてもらいました。二つ目の写真がそうです。Peterいわく、これは剛(瀬戸口先生)が作った模型だ! ということで、Peterも一緒に写真を撮らせていただきました。

瀬戸口先生は、この実験室に何日もこもって実験をされていたそうです。これらのシミュレーション装置や実験設備を整備しているUCパークレーは、やはり恵まれた研究環境をもっていると感じました。

【 2009/08/16 15:21 】

パークレー便り その24 ～ TOD 事例 その2 ～

5月にセメスター(学期)が終了して、しばらくは夏休みでした。
そこでその間には、いくつか都市デザインの事例を見て回りました。
これから数回にわたって、そのいくつかを紹介したいと思います。
まずはやはり話題の TOD (Transit Oriented Development) の事例です。
前回はサンフランシスコ半島の方を見て回りましたが、
今回は East Bay にある Fruitvale と Pleasant Hill の二つを取り上げます。



まず一目の写真がオークランドの南部にある Fruitvale です。
バートの駅があり、その駅前が TOD として開発されました。
このあたりはスパニッシュや黒人が多い地区で、市街地の改善が求められている地区でした。
そこに駅前の地権者が中心となって、ボトムアップで計画がつくれ実現しました。
いろいろと工夫が見られ、アフォーダブル住宅(低家賃住宅)や図書館、児童館といった公共施設も入れられました。
構成としては、2階までが主に店舗で、3階以上に住宅が入っています。
写真にあるとおり、なかなか頑張った開発だと思います。
しかしやはり周辺には黒人やスパニッシュが多く住むということで、雰囲気はあまりよくありません。
IURD の村上さんが言っていたように「日本と違い、駅前を開発しても、よい店舗、施設は入りづらい」
家賃が高くなり開発のメリットが少ない。
アメリカでは公共交通は所得が低い人たちが使うので、
駅の周辺はそのような人たちが集まる。」という TOD 開発の難しさがよく分かる事例でした。

次の写真は Pleasant Hill で、パークレーからは山を越えた東側にあります。やはりバートの駅のまわりの開発です。
ここはまだ未完成ですが、工事中の建物の様子を見ていただければ分かるように、
大きな TOD のプロジェクトです。すでに駐車場などは完成しています。
この地区は、ミニシリコンバレーといった感じのオフィスや研究所が多く立地するところで、
比較的所得の高い人たちが住んでいます。そのためおそらくきれいな感じの TOD ができあがることと思います。



ベイエリアには、他にもたくさん の TOD プロジェクトが進行しています。
それらはその地区の状況に対応して様々なようです。
今回報告した二つの事例と、前回(その12)で紹介した事例を見ていただければ分かるのとおり、
本当にさまざまです。また日本と違って、駅前開発の難しさがあります。そのようなことを本当に実感しました。

パークレー便り その25 ～アワニーホテル～



こちらはスプリングセメスターが終わり、
夏休みということでいくつかの都市デザインの事例などを見てまわりました。
今回はその一つ、事例ではないですが、アメリカの都市デザインの転換点となった場所を紹介します。

場所はヨセミテ国立公園です。夏休みの間は日本から何人かのゲストが来ましたが、
ですのでちょっと休暇ということでヨセミテに行ったのですが、
予想をはるかに上回るすばらしい場所でした。
特に「トンネルビュー」というヨセミテバレーを見通す眺望ポイントからの眺めは、
涙がでるほど感動的でした。

さてヨセミテというと、都市デザインの世界で有名なのが「アワニーホテル」です。
1991年に、ここに都市デザイナーのピーター・カルソープやマイケル・コルベットらが集まり
「アワニー原則」を発表しました。
これによって、アメリカの都市デザインの潮流は、ニューアーバニズム、
TOD といった環境に配慮したものに転換していきました。

今回は写真ではなく、私のスケッチでアワニーホテルを紹介します。
アワニー原則を打ち出した場所にふさわしい、ヨセミテの山と緑に囲まれた美しい場所にあります。
建物も素晴らしいものでした。
ちなみに宿泊料金はとても高く、我々はバーでお茶だけ飲みました。

【 2009/08/23 12:39 】

パークレー便り その26 ~ナパ~



「ふつうのまち歩き」楽しそうですね。

今回も蕎麦の写真が載っているのですが、米国留学中の私は美味しいお蕎麦が食べられません。うらやましいなあと思いつつ、楽しそうな萩野さんたちを真似て、ちょっと軽めの「便り」にします。

夏休みの間にはゲストが何人かあったこともあり、いろいろと出かけました。その一つにパークレーから車で1時間ほどのところにあるナパがありました。ナパ、ソノマというと、有名なワインの産地です。

1枚目の写真にあるとおり、このあたりの丘陵地は一面葡萄畑です。

留学前に、早稲田大学の後藤春彦先生にワイナリーを営んでいるランドスケープアーキテクトを紹介していただいたのですが、何と「豊洲2・3丁目まちづくり協議会」で一緒している下田明宏先生でした。ということで、6月下旬にそのワイナリーにお邪魔してきました。

広大な敷地には、ゲストハウスの他にプールハウスがあって、そこでテイastingをさせていただきました。2枚目の写真がその時に撮ったもので、真中が下田先生です。

ナパのことやワインづくりのことなどをお聞きする中で、何故、ランドスケープデザインの仕事の傍らにワイナリー経営を始めたのかもお聞きしたのですが、「ナパのランドスケープに惚れ込んだ」とのことでした。

実際、このワイナリーからの眺めはすばらしく、なるほどと納得しました。変化にとんだ丘陵地に葡萄畑や牧草地、森林が広がっています。またこのワイナリーの隣には湖もあります。ここにゲストハウスやワイナリーなどの施設を建設していくのは、確かに難しいランドスケープデザインだと感じました。地形をうまく読みとって、自然と人工的なものをレイアウトしていくことは、確かにやりがいのある仕事でしょう。

【 2009/08/31 13:23 】

パークレー便り その27 ～ラスベガス～

こちらは秋の Semester や研究ですっかり忙しくなっていました。
しかし、二本松プロジェクトの報告に負けないようにブログを書きたいと思います。

さて、夏休み中の話が続きます。日本からのゲストが来たこともありラスベガスに行ってきました。
ラスベガスというと「カジノ」を思い浮かべるとと思いますが、そのユニークな都市の様子も一見の価値があります。

それだけではなく、研究の関係で University of Nevada, Las Vegas が開設している
Downtown Design Center に行ってきました。
これはラスベガスのダウンタウン、有名なフリーモントストリートから数ブロック行ったところにあり、
古い小学校(歴史的建築物)をリノベーションした中に入っています。



Director のロバートに案内してもらいました。
ここでは常駐しているスタッフは3人ほどですが、建築学科の学生がたくさん来て作業をしているそうです。
テーマは、ダウンタウンの再生や市の建物のリノベーションなどがちょうどありました(写真1参照)。
作業室は3つもあり、かなりの面積を使っています。



また面白い事に、大きな木製の机の一つが地図になっていて、
ダウンタウンからホテルが立ち並ぶストリップ地区、空港までが入っています。
写真2はちょうどストリップのところですね。(ラスベガスに行かれたことがある方は分かると思います。)

アメリカでは、いくつかの大学が町中にデザインセンターを開設していますが、
ネバダ大学もなかなか大がかりにやっていると感じました。
私の研究テーマは「大学と地域との連携の仕組み」なのですが、我ながら面白い研究になりそうだと感じました。

【 2009/09/13 12:44 】

パークレー便り その28 ～ラドバーン住宅地～

またまた夏休み中の話です。7月には東海岸に行ってきました。
同じアメリカ国内ですが、飛行機で西海岸から6時間近くかかります。

さてそこで念願のラドバーン(Radburn)住宅地に行ってきました。
私が担当している2年生の授業「地域デザイン論」でも毎年話している
1929年にできたクラレンス・スタインによるものです。
すでにこの時代は自動車が普及していて、初めて歩車分離の計画を実現したものです。
ニューヨーク市から60kmぐらい北西に行ったニュージャージー州にあります。



写真はループ状になっているメインストリートですが、
歩道がないので本当に歩道がなく車道だけですので、
緑が多く感じられます。



これがクルドサックです。これが近隣単位を構成している
住者しか入ってこないということで静かですね。



オリジナルの感じを残しているものは少なかったですが、
しっかりついていますね。
1929年にすでにデザインされていた訳です。
在では一軒あたりの車の保有台数が
になっているようで、路上駐車が多かったです。



フットパス(歩道)の入口です。
各住戸からも入っていただけます。
歩車分離ができた訳ですね。



これが街区中央にある広場です。綺麗に管理されています。
フットパスがまわっていて、結構人の姿を見かけました。

質の高い住宅地を見学するのは本当に良い気分になります。
来年度からは授業で紹介できますし、良い時間を過ごすことができました。

【 2009/09/14 12:34 】

バークレー便り その29

～ Master of Urban Design Thesis Studio ～

こちらは秋のセメスターがとっくに始まっている訳ですが、このブログではもう少し夏休み中の話を書きます。
タイトルにある「Master of Urban Design Thesis Studio」とは、
アーバンデザインスタジオの修士課程最終課題ということです。
以前も書きましたが、このスタジオは1年間で修了するプロフェッショナルスクールで、
その総仕上げが夏休み中に行われます。



まずスタジオが行われている部屋の様子です。きれいとはいえない部屋ですが、
結構ゆったりしていて、個人の作業スペースが製図板2台分あります。
それ以外にも、打ち合わせ用の大机が二つほどあります。
写真には写っていませんが、端の方にパソコンとプリンターもあります。
なかなか良いスペースでしょう。
手前で背中が写っているのが、メイン講師のステファンです。
左の方にピーターも写っていますね。



最終レビューの様子です。
スタジオの部屋の壁は図面が貼れるようになっていて、それに可動パーティションがいくつかあって、
それらを使ってプレゼンテーションをしていきます。やはり図面をすぐに貼って、
検討したり意見交換したり、発表したりすることは大切ですね。
発表は、最終発表会を想定して、一人当たり10分ほどで発表していきました。なかなか緊張感がありました。

この最終レビューの10日後に、最終発表会が行われた訳ですが、学生によっては結構厳しい指摘を受けて、
この最終レビューの後には、みなさん必死になって頑張っていました。
最終発表会については、またこのブログで報告します。

【 2009/09/28 09:56 】

バークレー便り その30 ～メイン・ライブラリー～

志村です。

今も時々使いますが、夏休み中は UC バークレーのメイン図書館である Doe Memorial Library の Main Reading Room でよく研究作業をしていました。

UC バークレーの施設は、そのほとんどが寄付でできています。

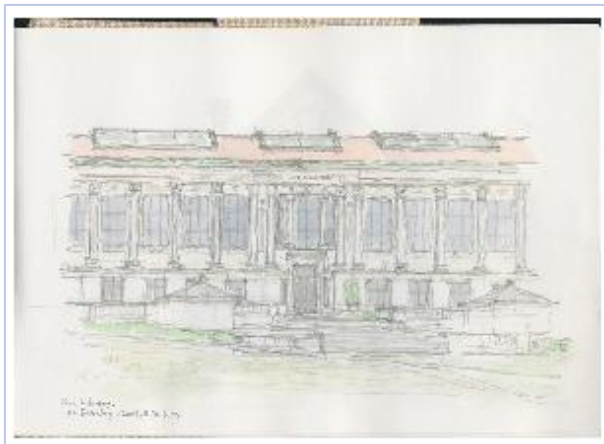
このメイン図書館も Doe 氏の寄付によって建てられました。

1917 年に完成した建物ですが、1990 年代に大規模な耐震改修が行われました。

こちらの良いところは、歴史的建造物を、耐震改修して大切に使っていることです。

またこの図書館の面白いところは、メインスタック(蔵書室)が地下にあることです。

さらにこの蔵書室は、ちょっと離れたところにある別の図書館に地下でつながっています。



また私のスケッチで、このメイン図書館を紹介しています。大きな芝生に面していて、UC バークレーのシンボルの一つになっています。



これが Main reading Room (メイン閲覧室) です。吹き抜けになっていて妻面に大きな窓があり、さらにトップライトまであります。

自然光で、また窓が開くので自然の風の中で作業や読書することができます。

とても気持ちの良い空間で、作業がはかどります。

【 2009/09/28 10:53 】

パークレー便り その3 1 ～ Village Homes ～

とっくに夏休みは終わっているのですが、もう一つだけ休み中に視察してきたところを紹介します。
ベイエリアから車で1時間ほどいったところ Davis 市にある Village Homes(ビレッジ・ホームズ) です。
ここは、カリフォルニア州都サクラメント 近郊の住宅地として、
アワニー宣言で有名なマイケル・コルベットの発案で、1981 年につくられたものです。
生態学的に持続可能なコミュニティ (ecologically sustainable community) を目指しています。



まず一つ目の写真はコミュニティ・ガーデンです。
とてもきれいに花や野菜がつけられていました。



次はコミュニティセンターです。
ソーラーパネルといった環境にやさしい様々な
仕組みが組み込まれています。



コミュニティの核になる広場です。
(小生のスケッチで紹介します)
向こうにはコミュニティセンターが見えます。



犬のウンチ袋もしっかり配置されています。
向こうにあるのはブドウ畑で、
住民がワインを手作りしています。



住宅地へのアプローチは、クルドサックになっています。
その奥がフットパスで、広場などにつながっています。



ガレージの上の緑化です。
きれいな花が咲いているところが多いです。
また雨水は、しっかり集められて、
土の中に浸透するようになっています。

一つ一つの建物は質素なもので、以前紹介しましたラドバーンのような華やかさはありませんが、
アーバンデザイナーが考えただけあって、全体の配置計画がしっかりしていると感じました。
また全体的に手作り感があって、ボトムアップが息づいているようです。好感がもてました。

【 2009/10/05 08:06 】

パークレー便り その32 ～ MUD Final Presentation ～

秋の Semester が始まってすぐに、MUD (Master of Urban Design Studio) の最終発表会がありました。
1年間で修士を取得するというプロフェッショナルコースの最後の晴れ舞台です。
学生達は夏休みもほとんど取らずに、この課題に取り組んできたのです。



発表会場は、やはり Wurster Hall の1階ロビーです。
この開かれた発表会場はやはり良いですね。
壁の展示スペースが十分にあるので、学生達も思い切って大きな図面をつくることができます。



図面はどれもなかなかのものです。
この学生、レベッカの鳥瞰パースは精密な上にコンセプトualです。
遠くに見える山と空を大きく描いているところがセンスを感じさせます。これは CAD と手描きを合成しています。



教員は、都市デザインだけではなく、都市計画とランドスケープ、さらに建築の分野からも出席しています。
卒業生も多く、またこの秋からアーバンデザインスタジオで勉強する学生達も参加しています。
観客は合計で50人ぐらいでしょうか。
またこの後には、レセプションも行われました。

芝浦工大でも、教室棟1階にある「ものづくりセンター」を使えば、これに近いことができそうですね。

【 2009/10/12 03:03 】

バークレー便り その33 ～新学期の始まり～

志村です。

新学期（ Fall Semester ）が始まった時の様子を報告します。



これは大学内の中央広場（ Memorial Glade ）ですが、
UCバークレーのシンボルカラーである青と黄色の風船が飾られています。
向こうに見えるテントを拠点として、イベントも行われていました。
ちなみにこの Memorial Glade は、当初（ 1860 年代 ）のキャンパス計画では、
広場としての機能だけではなく、サンフランシスコ湾が望める軸線にもなっていました。
しかしこの軸線は崩れ、現在、この広場からはサンフランシスコ湾を見ることができません。
代わりに、この写真の向こうに見える The Campanile（ 別名 Sather Tower ）の足もとから
サンフランシスコ湾が見えます。



これは大学のメインエントランスである Sather Gate 前ですが、
たくさんのサークル・クラブがデスクをつくって、新入生の勧誘をしていました。
日本の大学と同じようなもので、とても活気があり楽しげでした。
これらの様子を見ると、やはり「新学期が始まったなあ」と感じるものですね。
重要な大学の風物詩だと思います。

【 2009/10/14 08:09 】

パークレー便り その34 ～学生たちの訪問～

9月の上旬に、志村研究室修士2年の3人(黒崎さん、島田君、松島君)がパークレーに遊びに来てくれました。

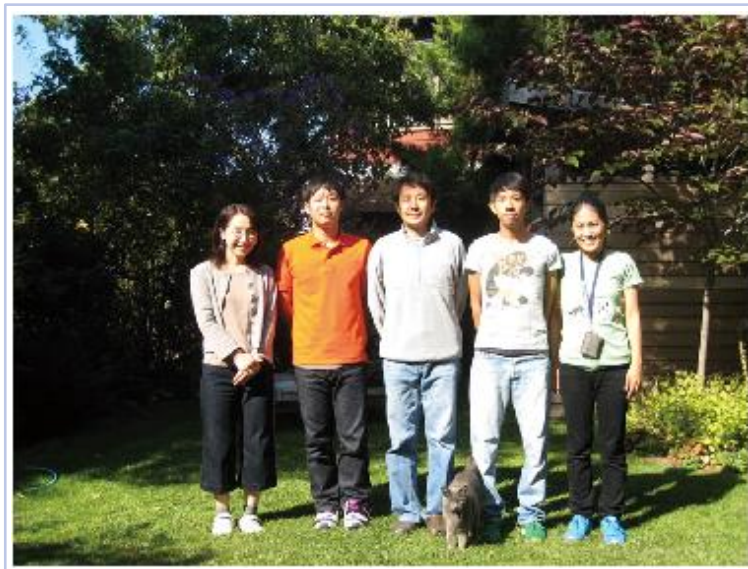
今年の志村研究室は、大学院生6人が居るのですが、この3人が来てくれた訳です。当然、歓迎しましたので皆さん楽しんでくれたと思います。しかしちょうどベイ・ブリッジの架け替え工事があり、空港に迎えにいったりサンフランシスコを案内することができませんでした。その代わりに、パークレーを案内し、またナパにも遊びに行きました。

詳しいことは、学生たちの報告にありますので、私の印象に残ったことを二つ書きますと、

まず皆さん「よく食べた」ということです。特に生野菜サラダはたくさん食べていました。妻と話をして「これだけつくれば残るだろう」と大きな器に山盛りにしたのですが、全部食べられてしまいました。やはりカリフォルニアの野菜は美味しいのだなあと再認識しました。

もう一つは、パークレーを旅立った後に、お礼のメールをもらったのですが、その中に「平和なパークレー」と書いてあったことです。これはパークレーの町をうまく表現したなあと感じました。緑が多くて、陽射しも暖かく、平和を愛する人たちが住んでいる町。このような町を増やしていきたいものです。

その平和な町の志村邸の庭で撮影した写真です。(学生たちのブログにもほぼ同じ写真が載っていますが)よく見ると、ネコのメルセデスが手前に写っています。平和な雰囲気に分かってもらえるでしょうか。 【2009/10/25 13:29】



パークレー便り その35 ～ Research Method ～



秋のセメスターでは、ピーターがアーバンデザインスタジオを担当しないということで、ピーターが担当している他の授業「 Environmental Design Research Method」に時々参加しています。

この授業は、近隣単位での環境に焦点を当てていて、Livability(暮らしやすさ)、Belonging(調和)、Vitality(活発さ)をキーワードに、生活環境を測定する方法を身につけようとするものです。

調査と分析は仮説を立てて行います。

例えば、「人口密度 と Vitality は相関関係がある」、「公園のデザイン と Vitality とは相関関係がある」、「商店街の店舗密度と歩行者行動は相関関係がある」などの仮説を立てて、それを証明するための調査・測定を行います。

調査は極めて定量的で、数のカウント、自動車の速度測定、騒音の測定などを道具や機材を使って行います。データはグラフだけではなく、地図を作製し、より効果的なビジュアルな方法を用いることを推奨しています。写真は、第1回目のテーマと仮説、調査方法に関する発表をしているところです。

学生たちは3人程度のグループをつくり、調査対象地区をパークレーやサンフランシスコから選んできます。今年は学生の数が40人以上と多く、12グループができました。

生活環境を測定して計画に結びつけることは、重要な学習です。芝浦工大では、私が担当している「地域デザイン演習」でやっていますが、しっかりしたものは、やはり大学院でやるべきでしょう。芝浦工大でもこのような授業を設けたいものです。

【 2009/11/01 09:27 】

パークレー便り その36 ～911～



かなり前のことですが、「911」のことについて書きます。

写真のように、キャンパスの中央広場に、
花びらで「911」と書かれ、学生たちが机を出していました。
さすがに大きな盛り上がりはなかったですが、通りかかった人も時折足を止めて、
学生たちと話をしていました。

やはりアメリカ人にとっては、忘れられない日なのでしょう。

先日、

アメリカ国内出張でサンフランシスコ空港に行った時の送迎バンの運転手がアフガニスタン人でした。
空港の警備は嚴重なので、

「アフガニスタン人が空港に出入りしていて大丈夫なの？」と思うところですが、
アフガニスタン人にもいろいろという訳で、彼は、知識人でアフガニスタンに居づらくなり、
米国に来たということでした。

そのような彼に空港に出入りする仕事を与えるところがアメリカらしいところです。

こちらでは、他にイラン人など母国に居づらくなりアメリカに来ている人に多く会っています。
みなかなりの知識人で、特にアフガニスタン人とイラン人は、
日本人に対して好印象を持っているようにも感じました。

ここで生活していると、国際情勢に関心を持たざるを得ません。

【 2009/11/09 13:01 】



秋学期になって、新しい MUD (修士アーバンデザイン) のスタジオが始まっています。アーバンデザインでありながら、これにはピーターなどアーバンデザインの教員が入っていません。建築の Rene とランドスケープ の Walter が担当しています。しかし実質的には Rene ひとりで進めている感じがあります。アーバンデザインスタジオでありながら、建築の先生がほぼ一人で進めるなんてことがあるんですね！しかし様々な分野の教員がスタジオをみることは良いことだと思います。

課題の対象地は、南ベイエリア、サンノゼの北にある Milpitas という町です。肥沃な農地といった意味のスペイン語からきている地名ですが、市街化が急速に進んで、住宅地と工場・倉庫地域、サンフランシスコ湾には、工業用の塩田が広がっています。もともとは干潟で、豊かな生態系が存在していた訳ですが、それが危機的な状況で、近年では生態系を保全する活動が熱心に行われている地域です。

急速に市街化が進んだために、かつてのクリーク(小川)がコンクリートの三面張りで、水質の汚染も進んでひどい状況であったり、課題の対象としては面白いところだと感じています。

写真は第1回目のレビューの様子で、学生たちは提案しようとしていることを、事例とイメージ写真をつかって表現しました。ただし事例のスケールが違ったまま、対象地の地図にコラージュする学生が居たり、全く違う状況のところをイメージしている学生が居て、レベルとしては心配な感じでした(正直言って)。ただし、ビジュアルなものをどんどん制作させる指導方法は良いと感じました。日本では、アーバンデザインの本格的な教育は少ないですから。

【 2009/11/16 11:01 】

バークレー便り その38 ～ Walk Out ～



UC バークレーでは、いろいろな出来事が起こっています。

みなさん御存じと思いますが、米国、特にカリフォルニア州は大変な財政危機で、
UC バークレーをはじめとする University California の大学たち(通称:U Cシステム)や
State University といったパブリック大学は、教員や職員の給与カット(10%程度)だけではなく、
解雇を始めました。

私が所属する IURD も同様で、主な職員が解雇されることになってしまいました。
今後は、Visiting Scholar 受け入れのシステムもどうなるかわかりません。
IURD の存在自体も危うくなっています。

それで職員たちがおとなしくしていないのが米国です。
写真のとおり9月下旬には仕事のボイコット(Walk Out)が実施されました。
デモ行進が行われ、
大学の正門にあたる Telegraph Ave.と Bancroft Way のところでは座り込みがありました。

大学のやり方に対する反対が、次々にマイクで叫ばれ、結構な騒ぎでした。
まわりを大学の警察も取り囲んでいました。

しかしこのようなデモは、ほとんどが本気ではなく、とにかく意思表示で、
民主主義のゲームのようなものらしいです。特にバークレーでは、歴史的に活発なようです。

【 2009/11/22 09:21 】

バークレイ便り その39 ～ Football ～



秋になってカレッジスポーツの花である Football(アメリカンフットボール) のシーズンが始まりました。話には聞いていましたが、なるほど試合がある日はお祭り騒ぎになります。

写真は、10月上旬にあった USC(南カリフォルニア大学) との対抗戦の時の様子です。

大学の広場で、(Cal) を応援する人達がバーベキューをしています。

お酒(ビールやワイン)もかなり入っていましたね。

他にも、ドミトリー(宿舎) の庭でもたくさんバーベキューが行われていました。

肝心の応援はどうしたの? という感じです。

対する USC の方も、大学の運動場の一角に大学グッズショップとカフェができていました。

USC を応援する人たちも結構集まっていました。

USC にも、大学の施設を開放しているところが友好的で面白いと感じました。

そういえば、ちょうど昨日(11 月21 日) にはスタンフォード大学との対抗戦(Big Game) が行われ、きわどい試合で Cal(UC バークレー) が勝利を収めました。

結構テレビニュースでも取り上げていましたね。

しかし財政難の大学は、スポーツ選手獲得のための予算を削減するそうです。

今後しばらくは、カレッジスポーツの様子がちょっと変わるかもしれません。

【 2009/11/23 14:50 】

バークレー便り その40 ～ Spice Festival ～

今回はバークレーの自宅近くであったイベント「Spice of Life Festival」について書きます。
このイベントは、North Berkeleyの Shattuck Ave. で毎年行われているもので、
食事ができる屋台(ブース)がたくさんで、日本の縁日のように賑やかでした。
違うのは、名前のとおり「生活に刺激を与える」ことをテーマにしていることです。
特に環境をテーマにしたブースが多かったですね。



一つ目の写真はゴミのことや
環境にやさしい生活について啓蒙するものです。



二つ目はソーラーパネルを推奨するものですね。



三つ目はカーシェアリングです。
バークレーではこのほかに Zip car という
カーシェアリングがあります。



四つ目は自然素材を使用した子供のための工作コーナーです。
我々が月島の草市で、商店街と一緒にやっている
丸太切りに近いものがあります。



最後の写真は、バークレーの小道をアピールする展示です。
月島の路地をアピールするようなものですね。

このような環境や地域資源をテーマにしたものが、日本の縁日の中に増えていくのも良いと思います。

【 2009/11/30 04:56 】

パークレー便り その41 ～ Univ. of Minnesota ～

調査で訪問した大学のまちづくりセンターや建築学科(学部)について書きたいと思います。
UCパークレーに来てから、「米国におけるコミュニティと大学との連携手法」について研究をしています。
これは、日本のまちづくりの地力を高めるための一つのアプローチとして、
大学はもっと地域の中で活躍できるという仮説に基づいています。米国では、多くの連携活動が存在します。
それをケーススタディして、日本での連携の可能性を高めることを狙っています。

春頃は、主にUCパークレーを事例として調査をしていました。
これについては、都市計画学会発行「都市計画 海外特派員便り」(5月号か6月号)で報告しましたので
一読いただけますと幸いです。
夏からは、全米の大学を対象として調査をしています。その中から、興味深かったところをいくつか報告していきたいと思います。

まずミネソタ州のUniversity of Minnesota(ミネソタ大学)です。
ここはCollege of Design(デザイン学部)がMetropolitan Design Centerを設立しています。
この現在のディレクターはIgnacioで、彼はUCパークレー出身ということで、親切にいろいろと案内してくれました。



はじめの写真は、センターの入口です。カレッジ1階にあります。
多くの研究プロジェクトと教育プログラムをもっており、かなり広い作業スペースや打ち合わせスペースがあります。



2枚目の写真からは、このカレッジ(デザイン学部、建築学科とランドスケープ学科)についてです。
この建物はかなり古い歴史的な建物なのですが、改修して中庭をアトリウムにしています。
そこが学生たちが自由に使える場所になっており、展示や大きな講演会にも使われます。
このアトリウムまわりの廊下が、設計演習の講評(ピンナップ)の場になっています。
どんな演習がどのように行われているか、全部見えてしまいます!



4枚目、5枚目の写真は、コンピュータ室と模型製作室です。大型プリンターなどかなりの設備が整っています。
模型は木工がしっかりできるようになっていて、さらにレーザーカッターも2台あります。
インストラクターがいるのですが、学生はこれらの機械を自分たちで操作して模型を製作できます。
また模型材料は、専属の業者が居て、自分でお店に買いに行かなくても、ここで注文して取り寄せることができます。
このミネソタ大学のデザイン学部は、全米で最も設備が充実した大学の一つです。この教育環境は本当に素晴らしいですね。

【2009/12/07 05:35】

バークレー便り その42 ～ Detroit Collaborative Design Center ～

今回はデトロイト・マーシー大学(University of Detroit Mary)にある
デトロイト 連携デザインセンター(Detroit Collaborative Design Center) について書きます。
マーシー大学は、キリスト教系の小さな大学(学生数: 5,700 人)ですが、
建築学部(School of Architecture) は結構知られた存在です。

前はミネソタ大学のデザインセンターについて書きましたが、
米国にはこのように大学内にデザインセンターが存在するケースが多々見られます。
公共機関ではありませんが、社会的に広く認められた存在となっています。



一つ目の写真はセンターの入口です。建築学部の1階にあります。
入口側の壁が大きく開くようになっていて、いかにも建築学科らしい工夫があります。



スタッフはほとんど学生です。この大学は小さいですから、学生は学部生(3年生、4年生)が中心です。
他のデザインセンターが大学院生中心なので、ちょっと違ってきます。
というもののディレクターの Dan がエネルギッシュな人物で、スタッフを引っ張っています。



3枚目の写真は建築学部の会議室の様子ですが、Dan が左の方に写っていますね。
彼にはセンターだけではなく、学部内でも案内してもらいました。
この会議室の壁はホーロー仕上げになっていて、ホワイトボードのように使うことができます。
また壁の2面が開くようになっていて、設計演習の講評会で使用できるようになっています。



最後の写真は製図室です。建物は古いのですが、改修してうまく使っています。
小さな大学でも工夫をすればここまでできるのだなあと感心しました。

バークレー便り その43 ～ Cleveland Urban Design Center ～

今回はクリーブランド市(オハイオ州)にあるクリーブランド・アーバンデザインセンターについて書きます。
このセンターは、ケント州立大学(Kent State University)という、
クリーブランドから南に100k m以上離れたところにある大学がつくった独立型(サテライト型)デザインセンターです。

デザインセンターには、前回、前々回に書いたように大学内に設置されているタイプと、
このセンターのように大学外で都心部に設立されているものの大きく二つに分かれます。
このクリーブランド・アーバンデザインセンターは、大学外にあるもののうち、規模として全米で最大のものの一つです。



センターはクリーブランドのダウンタウンに位置し、1900年代初期につくられた建物の2階に入っています。
ちなみに1階はバーで、また周りにはカフェなどもあり、なんとなく楽しいロケーションです。
しかしクリーブランドは、デトロイトと同様に工業都市として繁栄していた訳ですが、
現在はその産業が低迷しており、経済状況が悪く犯罪も多いところです。

インタビューは、ディレクターのChristopherとスタッフのTerryにしたのですが、
彼らいわく「このような問題を多く抱えた都市は、建築・都市計画の格好の課題であり、ここにセンターを設けることは当然」とコメントしてくれました。



センターの広さは9000フィートですが、800㎡ぐらいあります。
かなり広く、展示スペース、学生たちが作業しているスタジオ、オフィス、会議室と充実しています。



最後の写真が会議室ですが、この建物はいわゆる「アイアンフラットビル」(街区形状に合わせて鋭角な部分がある建物)で、
その鋭角の船の舳先のようなところに会議室があります。町の様子を見ながら会議ができる訳ですね。

街中にあるデザインセンターは、より積極的な大学とコミュニティとの連携を感じます。

【2009/12/21 02:14】

バークレー便り その44 ~ University of Illinois at Urbana-Champaign ~

今回も、米国における大学とコミュニティとの連携活動について書きます。

取り上げるのはイリノイ州立大学アーバナ・シャンペーンです。ここはイリノイ州で最高の大学なのですが、シカゴから車で3時間ほど南に行ったところにあるアーバナとシャンペーンという小さな町にまたがってあります。とにかく田舎です。

この大学には、イーストセントルイス・アクション・リサーチ・プロジェクト (East St. Louis Action Research Project) という取り組みがあります。

この名前の通り、取組の対象は、大学キャンパスから更に南に車で3時間ほど行ったところにあるイーストセントルイスです。セントルイスのすぐ東側にある訳ですが、この街は、1980年代に財政が破綻し、公共事業のほぼ全てがストップしました。例えばゴミ収集もストップし、まちは荒れ放題となりました。

そこで市長は、大学に助けを求め、それを受け1987年から、当時のランドスケープ、建築系の教員、学生が中心となって、都市再生の支援を始めました。

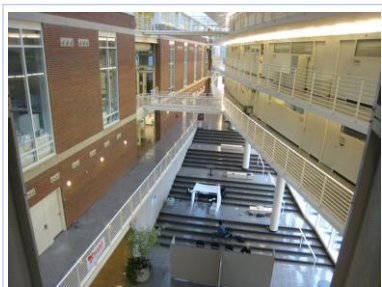
名前の通りで、清掃作業から、公園の設計と工事、マスタープランづくりと幅広く支援が行われています。



一つ目の写真は、大学にあるプロジェクトの事務所です。これまで紹介した大学と大きく違うのは、事務所が学部が存在するのではなく、直接大学に属しており、更にプロジェクトベースなので、スタッフは事務員一人しかいません。その代わりに、プロジェクトへの参加者は、建築系の学部だけではなく、幅広い学部から参加者がいます。活動もたいへん活発です。



二つ目の写真は、作業スペースです。このような事務所・作業スペースが、イースト・セントルイスにもあるそうです。私が訪問した時は、ディレクターのローラ (Laura) が案内してくれました。UCバークレー出身ということで、また共通の知り合いもいるということで親切にいろいろと案内してくれました。



3つ目の写真は、学部 (College of Fine and Applied Arts) の建物です。比較的新しい建物で、中央に吹き抜けがあり、全体が見渡せるようになっています。吹き抜けの右側が教員の部屋で、左側に教室やスタジオがあります。



最後の写真は1階にある展示スペースです。学生たちの作品などが交代で展示されます。立派なスペースです。

いろいろと印象に残った訪問でしたが、車で3時間のところに活動対象地があるというのが、志村研究室が福島県の二本松市や南会津町に行っているのと近いものがあり、親近感を覚えました。またこのようなプロジェクトベースで臨機応変にしかも20年以上継続している活動があるのだなあと大変参考になりました。

パークレー便り その45 ～ Yale University ～

今回も、「大学とコミュニティとの連携」事例の紹介です。
 東海岸の名門イエール大学（Yale University）です。私立大学で名門校として大変有名な訳ですが、
 学生数は1万人ちょっとしかいません。人数を絞ってクオリティを保っている訳ですね。
 このような大学ですが、Storefront（サテライト拠点）があって、
 そこで大学周辺コミュニティや様々なコミュニティとのワークショップ、連携活動が行われています。



Yale Urban Design Workshop です。
 たところを使っ て 1990 年代から活動しています。



るように、これまで、また最近の活動が展示されています。
 囲気もよくしています。



このデザイナー は Alan です。3枚目の写真で奥で作業しているのが彼です。

白いところは、デザインスタジオなどの教育プログラムを
 ないことです。
 として作業をするだけです。
 存在は大学からしっかり認識されていて、建築学科以外の教員も
 よっては関係するそうです。

Alan によると、イエール大学が規模が小さいので、またニューヘブンの町の
 まっているので、教員間の連携が取りやすいそうです。



Alan が建築学科（School of Architecture）の建物に入っても
 うので見てきました。
 は建物1階にあるギャラリーです。
 を持っている大学が違います。ここは外部の人間も自由に入れます。



学生が作業するスタジオ（製図室）です。
 環境が整っています。

ここでは紹介しませんが、大学全体の環境がすばらしい。
 町との関係も素晴らしい。このような大学とまちづくりは、なかなか日本では真似ができないですね。



志村です。皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。
 さてこの新年は、米国留学中ということで年賀状をでの新年のご挨拶ができませんでした。
 そこで Christmas Card と New Year Card を兼ねたものをつくりました。
 多くの方々にはお送りできませんでしたので、ここでそれを掲載して、ご挨拶をいたしますと共に、
 そのデザインに使用したスケッチについて説明します。

すでにこのブログでも、わたくしのスケッチについて何度か触れました。
 こちら米国では、やはり日本にいる時よりも時間にゆとりがある、こちらの友人にスケッチをせかされるなどの理由により、米国に来てからすでに40枚以上のスケッチを描いています。
 当然、バークレーでも多くのスケッチを描きました。それらをレイアウトしてこのカードを作りました。

まず左上と上真中は、バークレーで借りて住んでいる家です。正面と庭からそれぞれ描いたものです。
 右上と右は、UCバークレーのメインライブラリーですね。これは以前もブログに掲載しました。
 真中はセザーゲートです。UCバークレーの正門です。
 左は、カンパネッリ(セザータワー)です。やはりUCバークレーのもので、この鐘の音はたまりませんね。
 左下は、建築学科が入っているウースターホールの中庭です。
 ウースターホールはコンクリート打ちっぱなしの近代建築で、私が好きなのはこの中庭です。
 下は、バークレーマリーナです。ここはいつも風が強いです。右下は、ツインピークスから見たサンフランシスコです。
 軸線であるマーケットストリートが、真っ直ぐこのツインピークスに当たっていることがよくわかります。
 他にも、バークレーの町を描いたスケッチが数枚あります。バークレーはスケッチをしても楽しい町ですね。

米国では、スケッチを多く描いている訳ですが、描いている時にまともに声をかけられたことは今のところ一度しかありません。
 水彩で色つけしている時に言われたのですが、「私の筆は料理の時しか使われないわ!」とのことでした。
 アメリカ人らしいなあと率直に感じました。スケッチを描いている時の通行人の反応は、お国柄がでると思います。
 スケッチについては、また機会がありましたらまたご紹介します。

【 2010/01/04 17:56 】

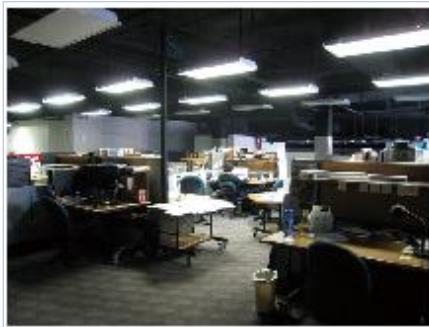
パークレー便り その47

～ Kansas City Design Center ～

今回は、カンサスシティ・デザインセンターについて書きます。
このセンターも、大学と地域とが連携して設立されたもので、
カンサスシティのダウンタウンにあるストアフロントタイプです。



珍しい点は、Kansas State Universityと University of Kansas が共同で設立していることと、
教育プログラムとして学生が16人参加していることです。
両大学とも、カンサスシティからはちょっと離れたところにあります。
これらの学生は、奨学金を獲得して、それをカンサスシティで暮らす生活費にあてて、
このスタジオでデザイン演習に取り組んでいる訳です。



また面白い点としては、カンサスシティは実はミズーリ州にあり、
そこにカンサス州の両大学がセンターを設立しているのです。
それは、ミズーリ州の大学には建築学科がないので、ミズーリ州とカンサス州は、
教育に関する協定を結んでいて、このようなことができるということでした。



3枚目の写真はセンターのギャラリーの様子です。かなり広いです。
説明は、ディレクター の Vladimir がしてくれました。
彼は、日本の建築を研究していて、芝浦工大の八束先生とも親しいということでした。
インタビューは、日本語でしました。日本語でインタビューができたのは、後にも先にもこの時だけでした。

【 2010/01/11 04:25 】

バークレー便り その48 ～ Clemson University ～



今回はサウスカロライナ州にあるクレムソン大学での、
学生たちを中心とした活動について報告します。

クレムソン大学は、サウスカロライナ西部の小さな町にある
学部生が中心の小さな大学(学生数 約 17,000 人)です。

しかし、ここのハビタット・フォー・ヒューマニティー(Habitat for Humanity) の活動は、
全米で最も評価が高いものの一つです。

ハビタット・フォー・ヒューマニティーとは、人間的な暮らしを重んじる活動で、
世界的に活動が広がっています。

このクレムソン大学では、貧しい家族のための住宅を毎年1件ずつ、学生と職員有志が建設しています。
大体2週間ぐらいかけて、大学の広場をつかって、土台部分から上を建設し、
完成後大きなトラックで運んでいきます。

建物は米国ですから、ツーバイフォーです。
だから学生たちや職員といった素人でも建設しやすいわけですね。

現地に行って驚いたのは、本当に学生たちが中心となって活動していることです。
リーダーの Jessica も、マネジメントを担当している Angela も3年生でした。
しかも建築学科とは関係ありません。

学生たちのバイタリティーはすごいものです。

【 2010/01/19 16:26 】



米国留学中には、やはり行政の様子も見なければということで、
 カラーデザイナーの尾崎真理さんにローレンス（Laurence）を紹介していただいて、
 サンフランシスコ市の建築課（Department of Building Inspection）を訪問してきました。

ローレンスは建築課の責任者で、奥さんのキャサリンとともに何度も訪日している親日家です。
 キャサリンは、数年前までサンフランシスコ市の都市計画課に居たのですが、
 現在は病気になってしまったため辞めて自宅療養しています。
 二人は、日本にサンフランシスコ市の建築課・都市計画課の仕事を紹介しました。
 このサンフランシスコ市役所訪問の前には、ちょうど来訪した尾崎さんとともに
 キャサリンの自宅も訪問しました。

サンフランシスコ市は、建築の規制が厳しいところなので、建築課の仕事も大変そうです。
 この日は、まずオフィスの様子を見せていただくということで、
 また後日、コミュニティ・ミーティングの様子を見せてもらうことになりました。

奇遇なことに、早稲田OBの椎名さんが、ローレンスとともに建築課で仕事をされていました。
 写真の真中がローレンスで、右が椎名さんです。
 こちらサンフランシスコベイエリアでのネットワークが更に広がりました。よい出会いでした。

【 2010/01/25 13:12 】

パークレー便り その50 ～講演会～

もうかなり前になってしましますが、11月19日 に IURD (Institute Urban Regional Development) の Round Table で講演する機会がありました 。
私は IURD の外来研究員な訳ですが、研究員は在籍している間に一回は講演することが義務付けられています 。



講演のテーマは、「大学と地域との連携 (University-Community Partnerships)」でした 。
日本での研究活動に加えて、米国で調査・研究している内容について話しました 。

具体的には、私の地元で芝浦工大の近くにある「月島」での活動についてまず話しました 。
最初は月島の都市空間の特徴・路地や長屋 (建築タイプ) について話しました 。
結構みなさん興味深そうに聞いてくれました。「路地ビール」の話は受けましたし、評価してくれました 。

後半は、米国で進めている研究について話しました 。
米国の大学のケーススタディとして「地域連携のための大学の組織」「組織ネットワーク」「活動内容」
「組織ネットワークの特徴」「予算」などについて調査・分析の成果を発表しました 。



小さな会場なので、聴衆は20人ぐらいでした。しかし皆さん熱心に聞いてくれました 。
英語の原稿づくりには、アダルトスクールの Debby、YWCA ボランティア の Eva が助けてくれました 。
Debby はご主人の David と共に講演を聞きに来てくれました。嬉しかったですね 。

英語での講演は、まあまあだったと思いますね。質疑応答はちょっと大変でしたが、貴重な体験でした 。

【 2010/01/31 14:41 】

バークレー便り その51 ～ Students Demo ～



昨年のことですが、学費値上げに反対する学生たちのデモ行進がありました。

秋には大学職員たちの Walk Out(ストライキ)があったのですが、今度は学生たちでした。学費だけではなく、博士課程学生の研究費が削られて、職員の給料に補助金がまわされていることにも強く反発していました。

はじめはデモ行進だけだったのですが、Wheeler Hall という大きな建物に学生たちが立てこもり大騒ぎになりました。二日間ほど立てこもり、最後は警官隊が突入して終わりました。ニュースで見ましたが、結構すごかったです。

学生たちの学費値上げ反対運動は、他の UC(カリフォルニア大学)でも起こり、UCLA やサンタクルーズでも大きな騒ぎになっていました。

びっくりすることがたくさん起こります…。

【 2010/02/01 14:36 】

パークレー便り その52

～ Thanksgiving Party ～



11月下旬には Thanksgiving があり、そのパーティーがたくさんありました。
サンクスギビングというと、ターキー(七面鳥)を食べます。
私は丸ごとのターキーを食べたことがなかったので、
このサンクスギビングを楽しみにしていたのですが、
結局、パーティーが数回あって4回ターキーを食べました。
もうしばらくはターキーはいらないなといった感じになりました。

左の写真は、アダルトスケールの先生 Debby の家でのパーティーの様子です。
遠慮がちに写真を撮ったので様子が分かりづらいと思いますが、
Debby の家はパークレーヒルの中腹にあって、とても眺めの良いすばらしいネイバーフッドにありました。
庭も緑がたくさんあって、すばらしい環境でした。
お客さんは40人ぐらいだったでしょうか。

右の写真には、Debby のご主人の David が写っています。
彼はビールを手作りしていて、それをご馳走になりました。とても美味しかったです。
2階の窓の内側には、妻が造ってプレゼントしたフラワーアレンジメントが写っていますね。

パーティーでの英語の会話は大変ですが、貴重な体験ができます。

【 2010/02/04 14:46 】

バークレー便り その53

～ University of Washington ～



日本に一時帰国していたため2週間ぶりのブログになってしまいました。

さて、昨年12月に は University of Washington (ワシントン大学、シアトル市) を訪問しました。ランドスケープ学科准教授 の Jeff を訪問すること、及び「大学と地域との連携調査」が目的でした。Jeff とは東京で一度会ったことがあり、それ以来の再開でした。彼は UC Berkeley 出身なので、今回の留学にあたりアドバイスももらっていました。

現在進めている「大学と地域との連携」の研究成果について説明し、米国における連携の基礎的調査としては一定の成果を収めていると認めてくれました。また、アドバイスもしてくれて、何人かアドバイザーも紹介してくれました。

その後、ランドスケープ学科、都市計画学科、都市デザイン学科が入っている Gould Hall を案内してくれました。実はここは2回目の訪問だったので、写真はあまり撮りませんでした。左の写真は、製図室の様子です。学部4年生と大学院生が一緒に使っています。

その後、「大学と地域との連携」の調査として、Carlson Center の Director, Michaelann を訪問しました。ワシントン大学は、学生センターがサービス・ラーニングや地域貢献センターを含んでいて、なかなかしっかりとした活動をしています。右の写真はそのオフィスです。

今回のワシントン大学訪問は、忙しい日程でしたが、大きな成果がありました。

【 2010/02/21 23:33 】

パークレー便り その54 ～ The end of Fall Semester ～

12月 は Fall Semester(秋学期) の終わりでした。つまり各授業の最終成果発表会が行われた訳ですが、ここでは Peter が担当していた Research Method と Muster of Urban Design についてレポートします。



まず Research Method (正確には Environmental Design Research Method) についてですが、その内容については「パークレー便り その35」ですでに書きました。
生活環境を測定し、その計画論の練習といった内容です。



約40人の学生が履修して、12グループが構成されて、成果を発表していききました。
完成度は様々でしたが、全体的な完成度は高かったです。プレゼンテーションはどれも良かったですね。
内容は、「定義」「仮設」「方法」「結果」をクリアに説明するように指導されていました。
「結果」の図示がグラフだけではなく、グラフィックに提示されていました。(二つ目の写真参照)

Muster of Urban Design の発表会もこの時期にありました。
(この内容についても「パークレー便り その37」で書いています。)

例によって Wurster Hall 1 階のロビーで発表会があったのですが、私が出席できたのは、最終発表会の予行会でした。
最終発表会は、外部からも多くのゲストが来るので、どうしても形式的になりがちです。
そこで実質的なクリティック(批評)は、そのひとつ前に行われるのです。



ここでも多くのゲストが来ていました。私も担当教員の Rene から声をかけられたのですが、
「建築系」「プランニング系」「ランドスケープ系」の3グループに分かれて、
学生の成果展示も3グループに分かれてピンナップされ、順番に説明とクリティックが行われていききました。

このように各分野で横断的に授業が行われるのは良い方法だと思います。
日本でも大学院では、いくつかこの方法をとるべきでしょう。

【 2010/02/22 00:37 】

パークレー便り その55

～ Mississippi and Texas ～

昨年12月には、調査で Mississippi, Biloxi と Texas, Austin を訪問しました。

まず Biloxi ですが、Mississippi State University の Gulf Coast Community Design Studio を訪問しました。

ここは2005年のハリケーン・カトリーナで大きな被害がでたところです。

このスタジオは、その復興まちづくりに取り組んでいます。



このようなところですから、NGOと自治体がしっかりと活動していて、Community Development Agency という組織ができています。その建物の中にスタジオが入っています。

Director の David は、建築家でもあり都市計画家でもあります。

また大学の教員でもあるのですが、大学で通常の授業は担当しておらず、

サマースクール(夏休み中の実習)のみを担当しています。

スタジオのスタッフは、全て大学の卒業生です。ここは設計事務所のようなものですね。皆、プロでした。

Mississippi は初めて訪れたものですが、この地域は全て低地で湿地帯が多いです。

大雨が降るとすぐに洪水になってしまいます。興味深いところでした。

次に Austin では、University of Texas と強い関係をもつ Alley Flat Initiative Project を調査しました。

このプロジェクトは Center for Sustainable Development が行っていて、

テキサス大学の教員と卒業生がこのセンターを動かしていますが、大学の組織ではありません。

プロジェクトでは、貧困コミュニティの住宅を計画・建設していきます。

空地(正確には敷地の使っていないところ)に住宅を建てます。



ここではスタッフの Sarah に案内してもらいました。

プロジェクトは、学生の演習(デザイン・ビルド)で行われます。学生が設計して、建設するというものです。

2枚の写真は、いずれもプロトタイプとして建設されたものです。

(ということで、学生がデザインしましたが、建設はプロがほとんどやりました。)

更にこのプロジェクトで、これから10件ほどが建設されていくそうです。

デザイン・ビルドの活動ではかなり熱心なもので、昨年 AIA から表彰されています。

米国では、大学と地域との連携で、本当に様々な取組があります。この二つの事例では、それがよくわかりました。

【2010/02/22 02:12】

パークレー便り その56 ～ UC Irvine ～

昨年12月のことですが、ロサンジェルスのある
UC Irvine(カリフォルニア大学アーバイン校)を訪問してきました。
この大学は、芝浦工業大学と英語の短期語学留学プログラムの協定を結んでいます。
そのようなご縁があるので、折角なので訪問してきました。

南カリフォルニアは気候が良いところです。
特にアーバインがあるあたりは、有名なロングビーチがあり良く知られています。



UCアーバインのマスコットは「アrikui」です。大学のカフェにも、アrikuiの像が飾られています。
キャンパスはとてもきれいです。中央に公園(広場)があって、同心円状に施設が配置されています。
アーバインは大学を中心とした町です。
日本人をはじめとして、アジア人が多く住んでいます。学生もアジア人が多く、半数近くがそうです。

芝浦工大の職員でUCアーバインで研修を受けていた小倉さんにMichelleを紹介してもらい会ってきました。
MichelleはESL(外国人向け英語教育)のマネージャーです。学生はアジアから多いと言っていました。
アラブ人も多いそうです。日本では、東大も協定校になっています。
パンフレットには、ディズニーランドやロングビーチに近いことが強調されていました。
ここでは、ESLが大きな収入源になっているようです。



ESLの建物は、キャンパスの端にある簡素なものです。
しかし、キャンパス全体の環境が良いですから、英語を学びに来るのには良い条件と言えるでしょう。
更に、Department of Planning, Policy and Design(計画・政策・設計学科)にも訪問してきました。
ここでは計画が専門のVictoria Beard教授に会ってきました。
彼女はアジア等の発展途上国でのコミュニティ計画が専門で、私とちょっと専門が違います。
ということで、この学科の施設等を教えてもらう程度で短時間の面会でした。
この学科の規模は小さく、大学院はUCパークレー等に進学する学生が多いようです。
今後も機会があれば、ここを訪れるなどして、UCアーバインと交流を続けていきたいと思えます。



UCパークレーで一緒している日本からの外来研究者(Visiting Scholar)らとの楽しい集まりについて書きます。このトピックについては、どうしても皆さんの写真が載ってしまうなど、個人情報に関わることなので今まで書くのを避けてきました。しかしあまりにも楽しいことを一緒させていただいているので、写真を掲載しても良いという皆さんのご了解を得た上で、この記事を書くことにしました。

何が楽しいかというと「パーティー」です。食事会も何度もしていますが、大きなパーティーですと、まず Thanks Giving でパーティーをしました。その後には、左の写真の「忘年会&クリスマスパーティー」がありました。パーティーのリーダーは、慶応大学の森吉さん(写真中央)です。とにかく料理が上手い方で、特にデザートは最高です。英語のゲームを企画したりと、本当にパーティーを盛り上げていただきました。

パーティーで多くの芸を披露していただいたのが、首都大学東京の伊藤さん(一番右)です。さすがに知識が豊富で、会話がまず面白かったのですが、先日の「お別れ会パーティー」では早口言葉のレパートリーを披露していただきました。

右側でちょっとだけ写っていますのが、やはり慶応大学の段さん(右の写真では中央右)です。段さんはスタンフォード大学の外来研究者なのですが、スタンフォードから何度もパーティーに参加されていました。中国の方なのですが、すごく日本語がお上手で、日本人と言われても分からないほどです。

右の写真は、今年の「新年会パーティー」です。これは、これまでもこのブログに登場している奥富さん、包さん(写真後列左のお二人)宅で開かれました。とにかく包さんの中華料理がおいしかったです。奥富さんも一緒に料理をされるのですが、やはり料理がお上手です。この時の料理の量は、本当にすごかったです。これが中国風なのでしょう。

写真の一番前に座っているのが、岩崎さんです。岩崎さんは外来研究者ではないのですが、森吉さんの教え子ということで、何度もパーティーをご一緒させていただきました。最若手ということで、パーティーの後の片付けを率先してやっていただいています。

皆さん日本ではお忙しいわけですが、ここではその忙しさから少し離れることができます。これらのパーティーは、本当に楽しいパークレーでの思い出になります。

パークレー便り その58 ～ Home made beer ～

ここパークレーでは、本当に楽しい・面白い経験をしています。

その一つが、「自家製ビールづくり」の見学です。

アダルトスクールの英語の先生 Debby のご主人 David はすでに Thanks Giving パーティーの時に登場しています。

その David の趣味が「自家製ビールづくり」なのです。

私もビールが好きで、以前 Debby・David ご夫婦を寿司レストランにご招待した時には、

日本のビールをいろいろと紹介しました。

また私が東京の地元・月島で「路地ビール」を販売しているという話もしていました。

そこでビールづくりに招待された訳です。



工程について簡単に説明しますと

、
に Malt (モルト) を入れて、1 時間半ほど煮込みます。

モルトを入れて

ら液体のモルトを入れます

せてもらいましたが、すごい甘いのです。



ホップを入れます

固めた状態になっています

David は色々なホップを集めていて、

の風味はホップで決まるそうです

した

せてもらいましたが、苦かったです



間ほど寝かせておきます。発酵させるためですね

薄めてさらに少し発酵させて完成です

話をします

David はびん詰めの道具までもっています。

David のビールは風味があって本当に美味しいです。ちなみにこの日つくったものは Scottish Ale でした。

こちらでは、Ale ビールはおいしいですね。ビール文化は進んでいると思います。

パークレーには、家庭用ビールづくりのための「キット」が売っているそうです。

それを購入すれば手軽に(?)ビールがつかれると、

私にもそのキットを買って日本に帰るように強くすすめられました。

いつか本当に、自家製「路地ビール」をつくりたいものです。

【 2010/03/01 11:07 】

パークレー便り その59 ～ CSU Fresno & LA ～

今年1月には、最後の大学訪問調査としてカリフォルニア州フレズノにある California State University, Fresno に行ってきました。ここは小さな大学で、また建築・都市計画系の学科がありません。そのため NPO（非営利組織）のプログラムに参加する形で、地域貢献教育をはたしています。

その NPO とは、Stone Soup Project です。その代表 Kathy と会ってきました。



一つ目の写真はここの NPO 事務所の入口です。大学キャンパスのすぐ近くにありますが、ここは低所得者のコミュニティなのですが、NPO はその生活環境の向上を目的とした活動をしています。大学も、キャンパス周辺の環境が改善されるので、メリットがある訳ですね。



その次に、CSU フレスノの地域連携センターの Chris に会いました。ここはセンターの名前のとおり、寄付金で運営されています。

この調査の後には、ロサンゼルスまで行ってきました。それも私と妻だけでなく、同じ UC パークレーの研究者、韓国から来ている Sanghyeok とその奥さんの Miae と一緒に行きました。外国人と4泊5日も一緒に旅をしたのは初めてでしたが、とても楽しかったです。



3枚目の写真は、LA にあるゲッティ・センターですね。モダニズム建築家のリチャード・マイヤーが設計しました。今回の調査旅行は、いろいろと充実したものになりました。

【 2010/03/08 16:40 】

バークレー便り その60

～ English Conversation Partner ～



こちら米国バークレーでの留学生活も残り少なくなってきました。
この1年間、充実した生活を過ごすことができたのは、いろいろと助けてくれた人たちが居たからでした。
その中で、まだこのブログで紹介していなかった重要な人が居ます。

YWCAの English Conversation Partner、Eva です。

YWCA では、英会話の練習をサポートするボランティアが居て、
年間登録費 \$ 15 を支払うと、そのボランティアを紹介してもらえます。
我々には、Eva が紹介されて、この1年間、英会話パートナーとなってくれました。

Eva は第2次世界大戦の時に、チェコスロバキアから米国に移住してきました。
はじめは東海岸に住んでいましたが、その後、このバークレーに移り住んできました。
Eva の話は、英会話の練習になるだけでなく、
激動の20世紀の生き証人のような人で、とても興味深かったです。
ドイツのチェコ侵略、共産政権の樹立、彼女はすでに米国に居ましたが、
共産政権の崩壊、チェコとスロバキアの分裂、米国の発展と全て体験してきた訳ですから。
それらを時々「さらっと」と話すわけですが、実態を物語っており面白かったですね。

とてもありがたかったのは、私の昨年11月の IURD 講演についていろいろと助けてくれたことです。
特に発音の特訓をしてくれました。
すっかり仲良くなり、この正月元旦には自宅のランチに招待してもらいました。
これからも元気でいてほしいものです。

【 2010/03/09 02:34 】

バークレー便り その61

～ Spring MUD and Thesis ～



Spring Semester(春学期) に入って、新しく授業が始まっています。

その中から MUD(Muster of Urban Design という都市デザイン演習の授業と、Thesis(修士設計) について紹介します。

まず MUD という都市デザイン演習ですが、サンフランシスコのエンバカデロ(Embarcadero) 地区を対象として、集合住宅と主とする複合施設群をデザインするという内容です。

この地区は、1985年の地震で破損したフリーウェイを撤去した後に、公園やテニスコート、プールなどがつくられました。

しかしそれらは、この都心地区には必要でない土地利用です。

また、サンフランシスコ市は、現在、住宅不足が問題となっています。

そこで、この地区に住宅を設計するという課題が設定された訳ですね。

左の写真は、授業の第1日目に、ピーター(Peter) がサンフランシスコの都市環境シミュレーションモデルを囲んで、対象地区とその周辺の状況について説明している様子です。

学生たちは、この模型を初めて見たのでビックリしていましたね。意見交換も盛り上がっていました。

次は、修士設計についてです。これは今年8月までかけて仕上げるものです。

学生は、各自テーマと対象地区を決めて、設計を進めていきます。

第1日目は、学生たちが検討しているテーマと対象地区について、順番に発表し、意見交換をしていました。

右の写真のような感じです。

この第2日目は、参考文献、論文を収集し、発表し合うという内容でした。

参考文献、資料の収集については、2週間かけてやってしっかりやっていました。

興味深かったのは、ゼミに図書館員(Librarian) を呼んで、参考文献探しのアドバイスをしてもらっていたことです。

ここ UC バークレーだけではなく、欧米の大学図書館員は、ものすごく図書に詳しく、人格も優れています。

これは日本の大学図書館とは大きく異なることです。見習わなければなりません。

【 2010/03/15 11:03 】

バークレー便り その62

～ Sycamore Church ～



ここバークレーでは、研究以外にも様々な人と知り合い、また色々と訪問しました。

アルバニーのアダルトスクールで知り合ったマリエさんのご主人が、日本語教会の牧師さんだということで、ミサの時にその教会を訪問してきました。

バークレーの北 El Cerrito にある Sycamore Church (シカモア教会) です。日本語でミサをする教会は、バークレー近郊ではそれほど多くなく、サンフランシスコのジャパントウンとここだけだそうです。

牧師さんをされているマリエさんのご主人は佐原さんと言います。佐原さんから聞いたのですが、日本語のミサに参加する人は、年々減っており、ほとんどの日系アメリカ人は英語のミサに参加しているそうです。ですので、ミサを中心とした日本人のコミュニティは希薄になっているようです。

全体的に日本人のコミュニティはバラバラになっており、サンフランシスコのジャパントウンでもその問題は同じようです。

これまでにこのブログでも紹介した椎名さん(ジャパントウン在住)に聞いた話では、日系アメリカ人の歴史や活動が継承されないのではと深刻な状況になっているようです。

やはりかつて米国にやってきた日本人は相当な苦勞していて、特に第二次世界大戦中は悲惨な経験をしたのです。それにもかかわらず、戦後は日本本国が大変な状況で、日系アメリカ人たちは、食糧や物資の本国への調達に力をそそいだそうです。

国際化が急速に進んでいる今日、また将来においても、海外の日本人コミュニティの良く末は大きな課題であり、それにもっと社会的関心を集めるべきだと思いました。

【 2010/03/15 15:41 】

パークレー便り その63 ～ Guests ～

3月上旬には、日本から多くのゲストに来ていただきました。
まず3月1日から、早稲田大学の有賀先生が来られました。
有賀先生は、3月下旬に日本の唐津市で開催される国際アーバンデザインワークショップについて、
ピーターと学生たちに説明することが主な訪問の目的でした。
その目的以外の時間に、サンフランシスコのいくつかの場所をお連れしました。



その一つが、Mission Bayの再開発です。ここはサンフランシスコで最も大きなプロジェクトで、一目の写真のとおりUCSF(カリフォルニア大学サンフランシスコ校)のバイオテクノロジー研究関係の施設が大体完成しています。またそれに伴って、アパートメントや民間企業のオフィスができています。このあたりは、以前ピーターにも案内してもらったのですが、もっと南の方や丘(Hill)の方の再開発も検討されているようで、本当に大きなプロジェクトになっています。

3月3日からは、千葉大学の宮脇先生がいらっしゃいました。宮脇先生も色々な所にお連れしました。その一つが、かねてから訪問したかったSea Ranch(シーランチ)です。



これは、ローレンス・ハルプリンが全体計画をたて、チャールズ・ムーアが建築設計をしました。ハルプリンは、都市計画における市民参加ワークショップの考案者として有名です。ぜひこれは訪れたいと思っていました。パークレーからは、片道3時間の道のりでした。しかしそれだけの甲斐があるすばらしい建築でした。

3月6日からは、芝浦工大の大内先生が訪問されました。大内先生には、ベイエリアのWater Front(水辺)再開発を中心にご案内しました。というのも、大内先生とは、江東区、特に豊洲を中心に、将来計画の検討作業でご一緒しているからです。

3月7日からは、明治大学の小林先生と、安井建築設計事務所社長・佐野様にご訪問いただきました。佐野様は、私のかつての上司です。安井事務所では、4年間お世話になりました。佐野様とは、サンフランシスコを中心に建築を見て回りました。その一つが、California Science of Academy(カリフォルニア科学協会)でレンゾ・ピアノが設計しました。



これは、環境に配慮した設計として高く評価されています。また、展示内容がよくできていて、環境について上手く啓蒙する仕組みになっています。10日間で5人のゲストの方々が来られました。ちょっと忙しかったですが、多くの方々にお越しいただいたことは本当に幸せでした。

【2010/03/19 06:33】

パークレー便り その64 ～ Suprise Party ～



3月、いよいよパークレーを去る時には、本当にいろいろな思い出ができました。
パークレーで知り合った方々、IURD の村上さんや奥富さん、包さん、森吉さんといった日本からの Visiting Scholar、English Conversation partner の Eva、アダルト スクールの Debby や David、Miae とサンヒョク、マリエさんと佐原さん、本当にいろいろな方々と楽しく過ごさせていただきました。

そして、日本へのフライトの前日、アダルトスクールの Debby に誘われて、Debby の自宅でランチをするはずが、なんとそれが Suprise Party でした。
これは本当に驚きで、全く予想していませんでした。
アダルトスクールの生徒皆が来てくれて、それぞれの国の料理をもってきていました。ポットラッグパーティーですね。また食事が終わった後には、皆でブラジルのサンバなどを踊りました。

本当に楽しかったです。

この後、夜は、空港近くのホテルまで、Miae とサンヒョクに車で送ってもらいました。
お礼ということで Dinner を一緒に食べました。
本当に、思い出深い最後のパークレーとなりました。

【 2010/04/03 22:05 】

バークレー便り その65 日本～唐津、月島～



1年間の UC バークレーでの Visiting Scholar が終わり、日本に帰国しました。

しかしそれで終わりではなく、

ちょうど日本建築学会主催で開催された国際都市・建築デザインワークショップに参加しました。

これは九州、佐賀県、唐津市で開催されたのもので、世界中13カ国から約35人の外国人学生が参加して日本人学生を含めると計43人の学生が参加しました。

これに UC バークレーからも、Peter と非常勤講師の Stefan、学生9人が参加するというので、私も途中から参加しました。

学生は皆、とても熱心でした。最終成果もすばらしかったと思います。

そのワークショップの後、Peter や Stefan、学生たちが東京にきました。

Peter と Stefan は築地に招待し、その後、学生たちには月島を案内し、もんじゃ焼を食べました。

皆、結構楽しく食べていました。

「土手を作れー」「湖をつくれー」「堤防が決壊した！」などと騒ぎながら、

チームワークでもんじゃをつくっていました。

という訳で、帰国してからも忙しい毎日でしたが、

UC バークレーの皆さんがちょうど日本に来てくれたおかげで、単に帰国して終わりではなく、

少しずつフェイドアウトしながら日本での生活に復帰しました。

とても幸せな一年でした。

これで「バークレー便り」も終わりとさせていただきます。

お読みいただきありがとうございました。

【 2010/04/03 22:18 】

From Berkeley
California
United States



Hideaki Shimura
Visiting Scholar in UC Berkeley
2009. 4 ~ 2010. 3